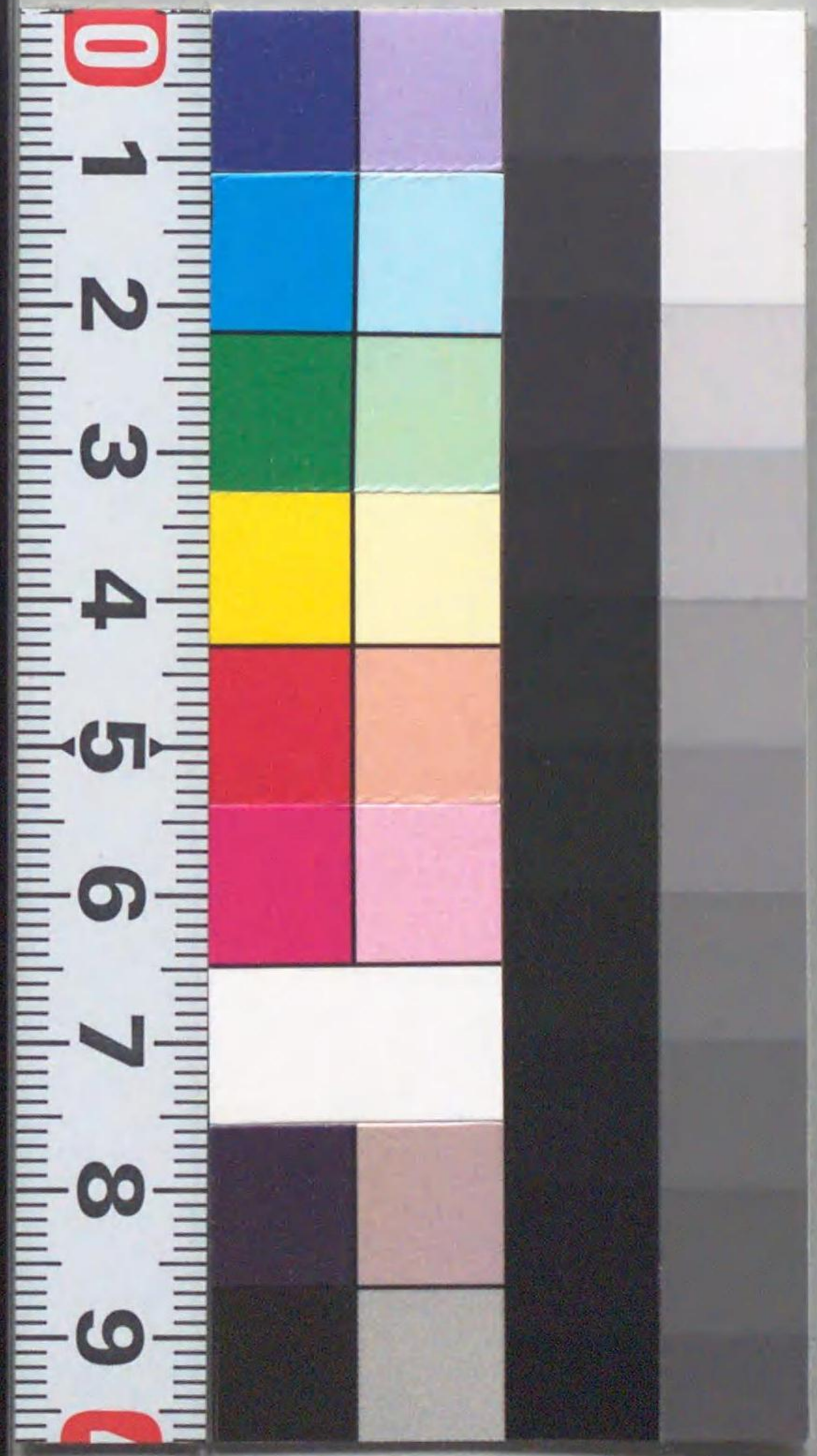


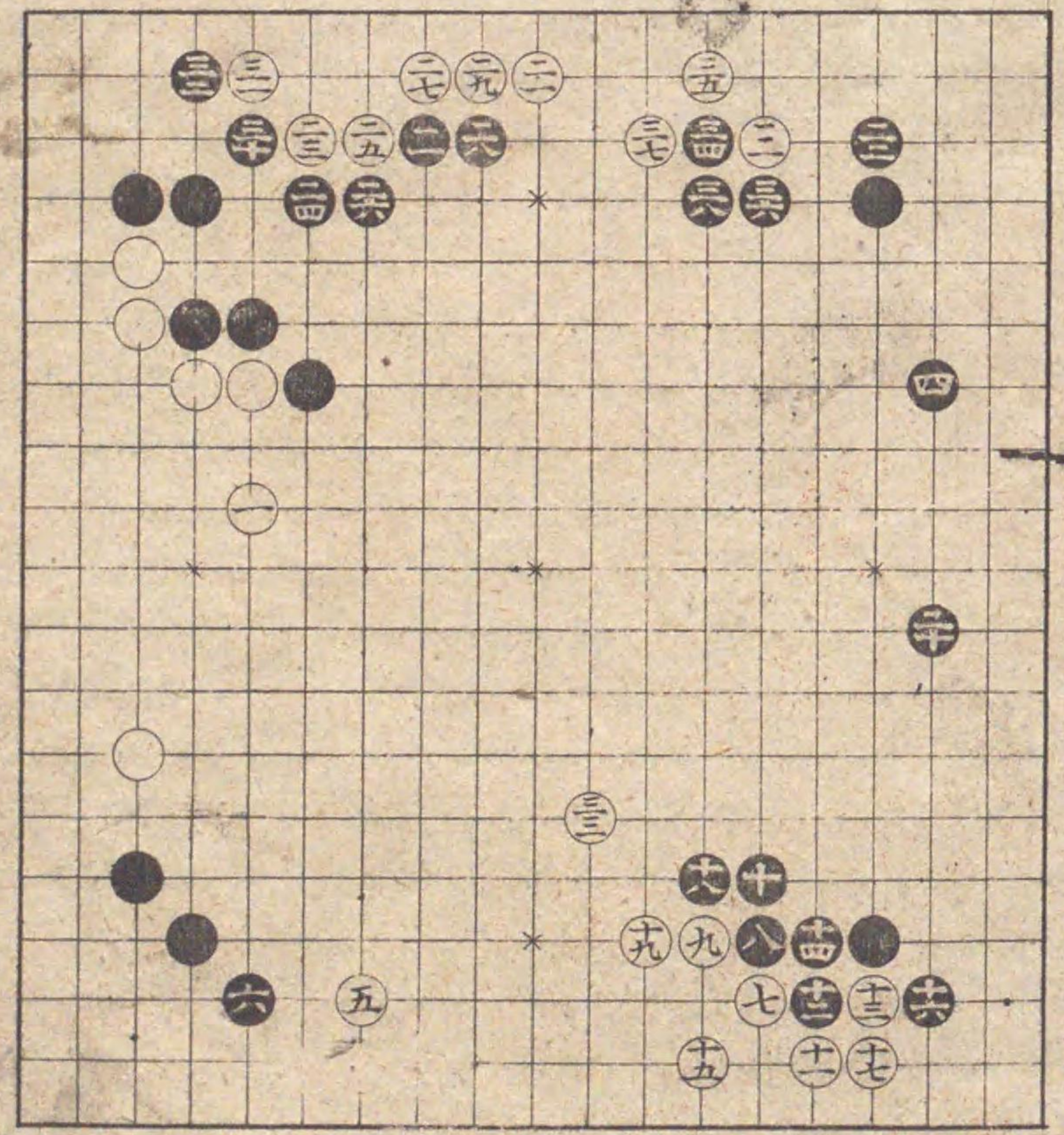
795.
H3380
~~(W)~~



795
H3380
(1)

置碁自在

上部の本番白十五の
手とり替る
二一の所白重きあへ
三五と打如此方りて
ハ黒堅く大よ吉
三四吉



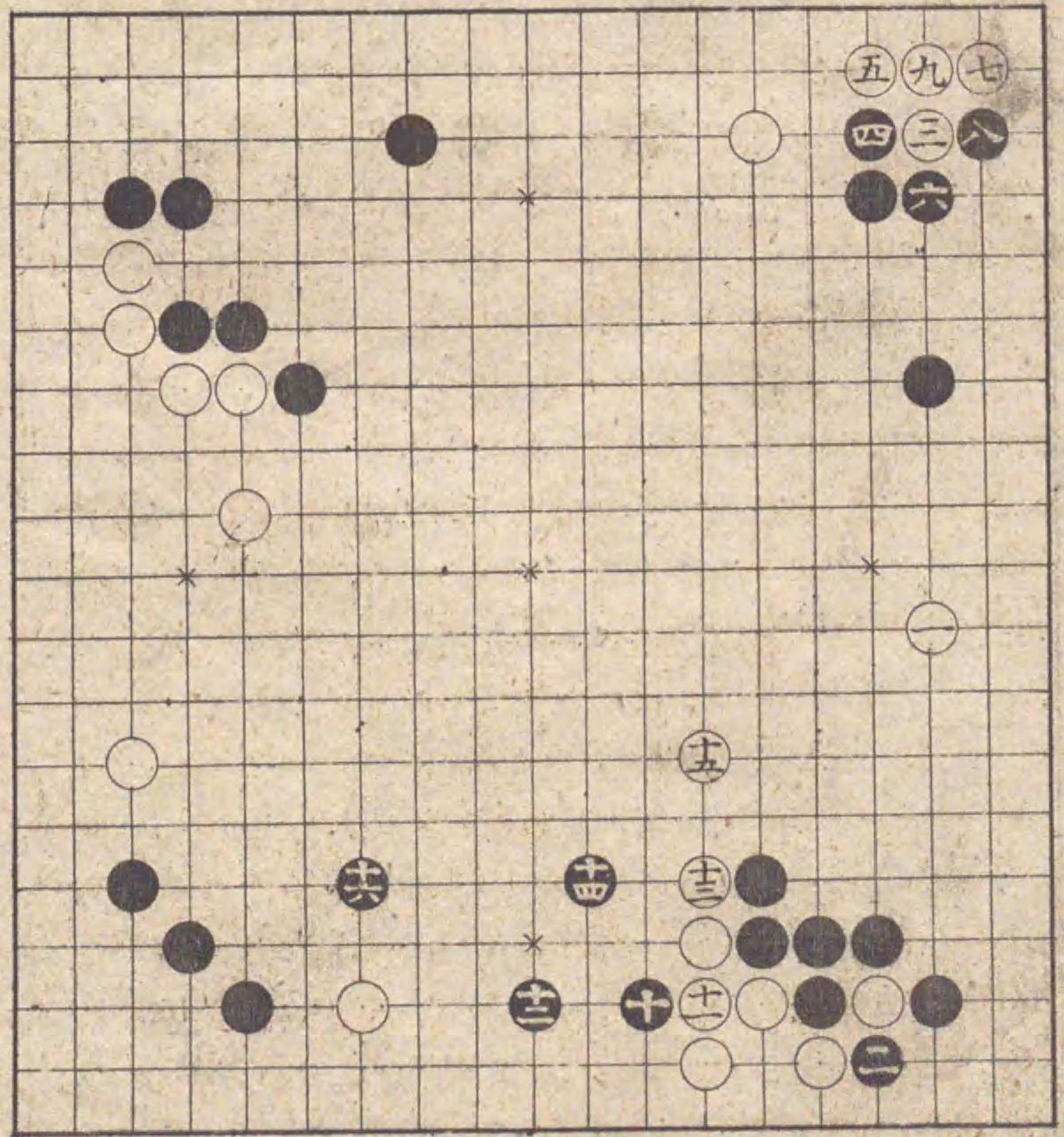
置碁自在
四目置之部
下卷第廿六
芳書



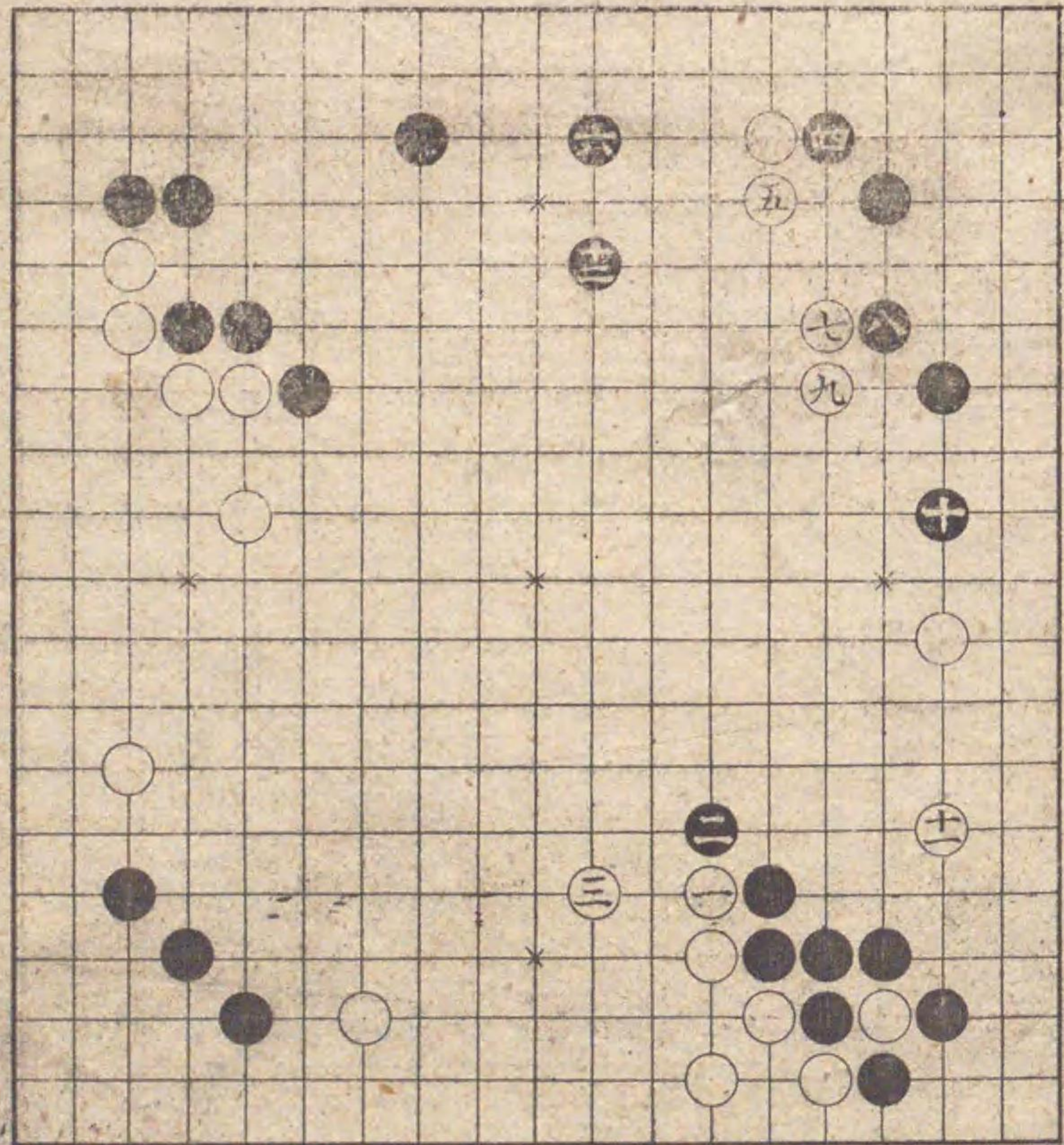
贈
瀨越田碁文庫
殿

617158

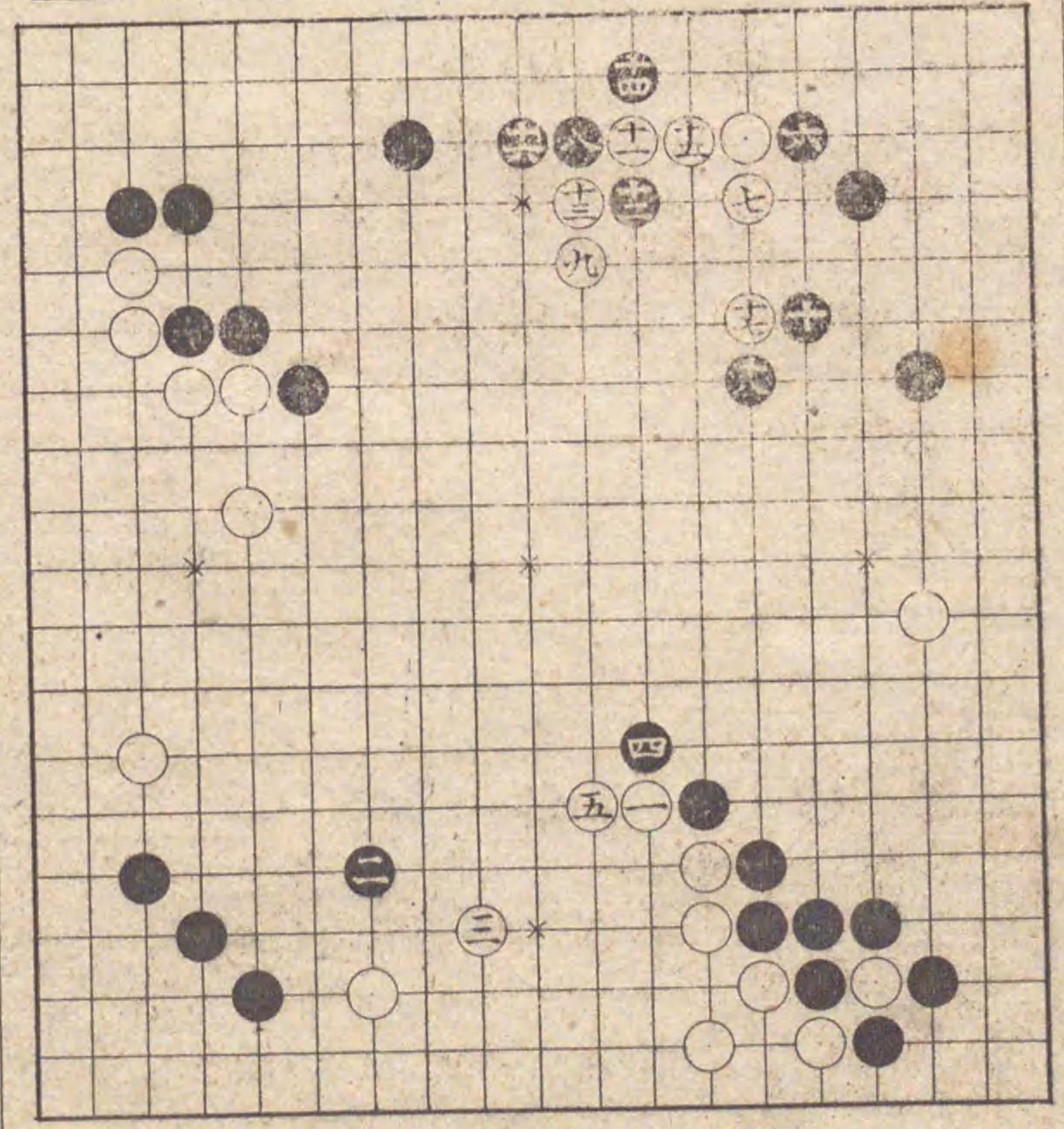
前番白十七ぬ手とり
りわり
此振替り黒とし



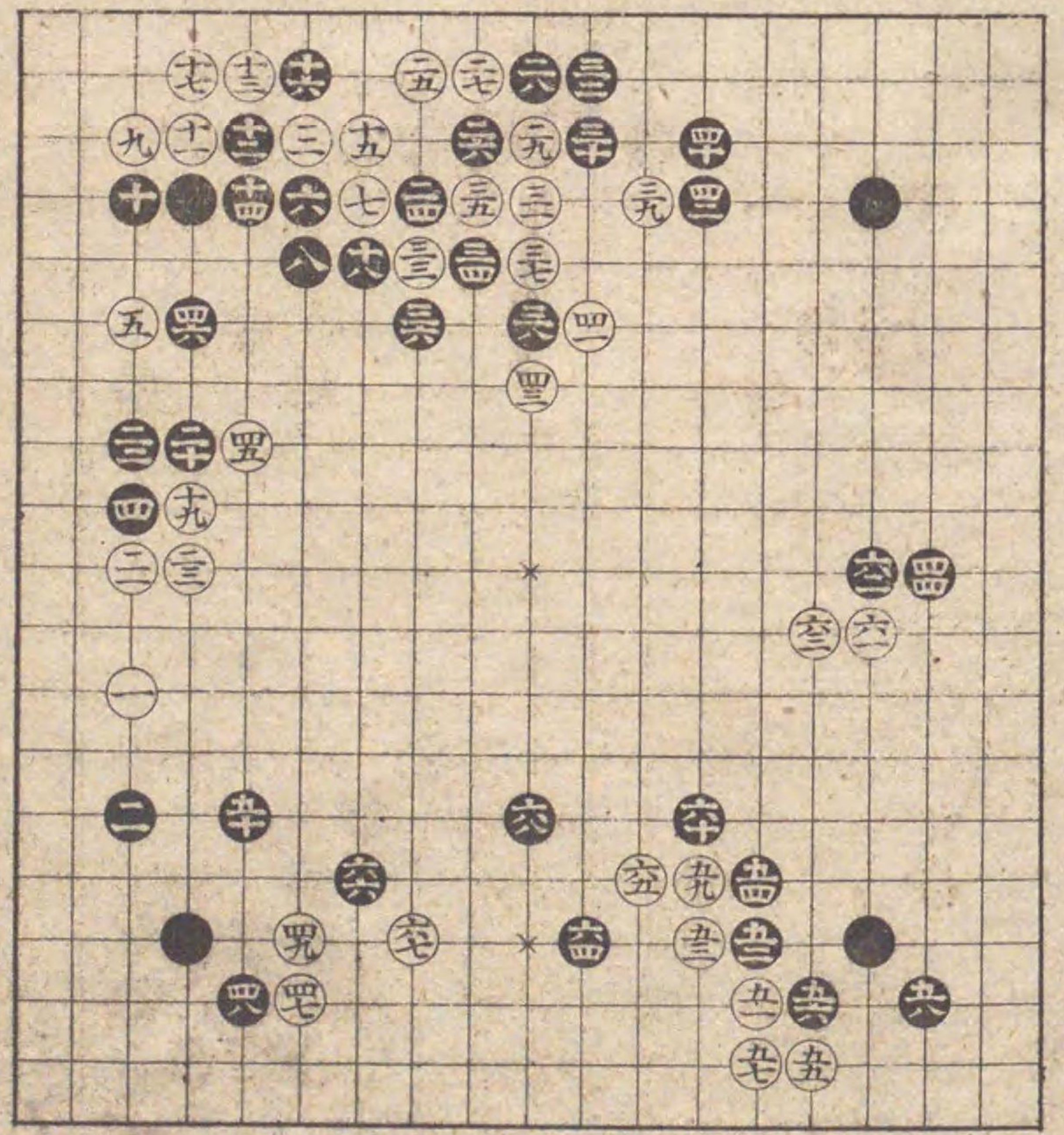
前番白三の手とり替
る
此替りも黒打とし



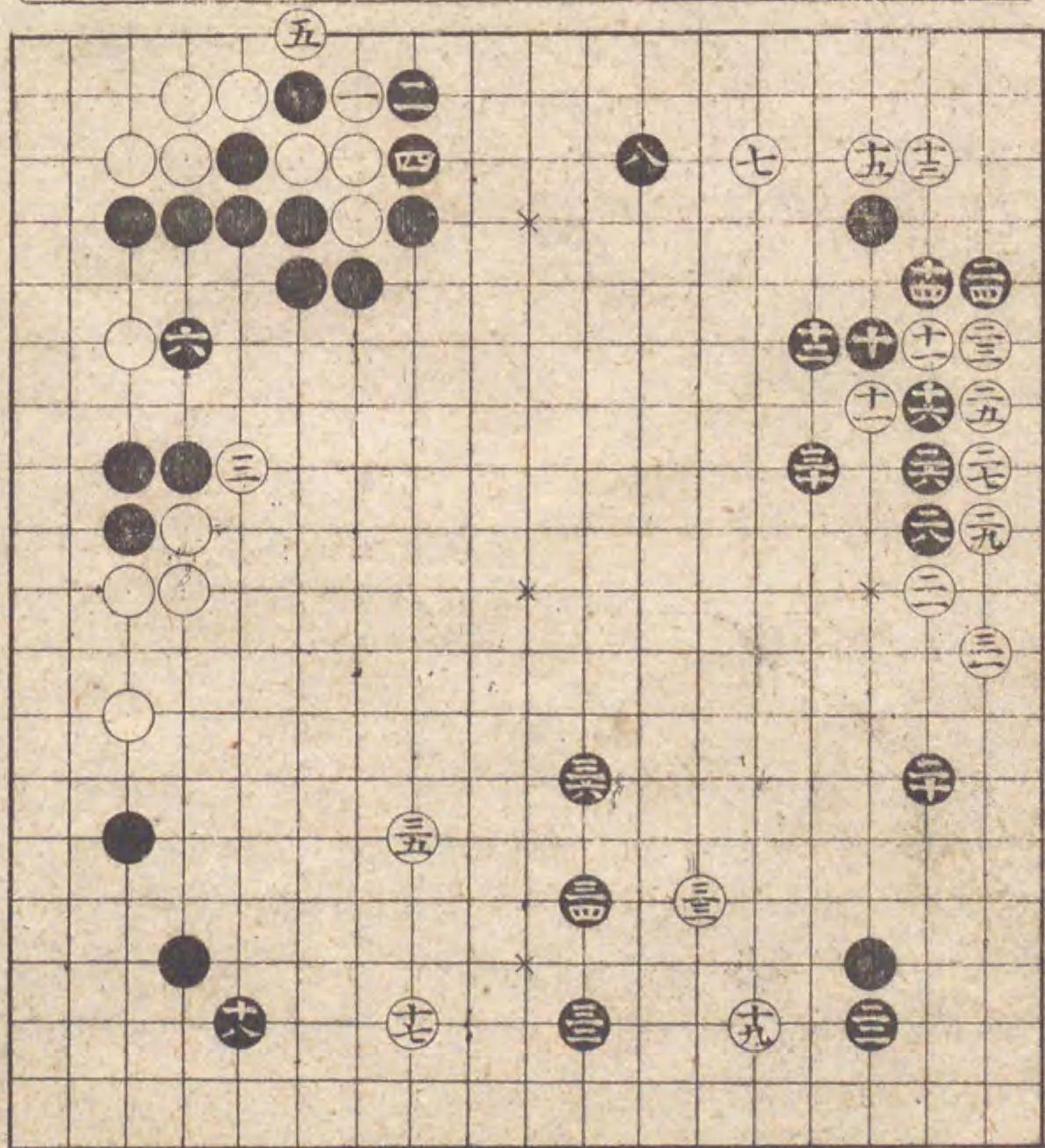
前番白三の手より替
る
白と打とき二と打か
こせをもて打心持
間々有事へ考へ打へ
まことなり



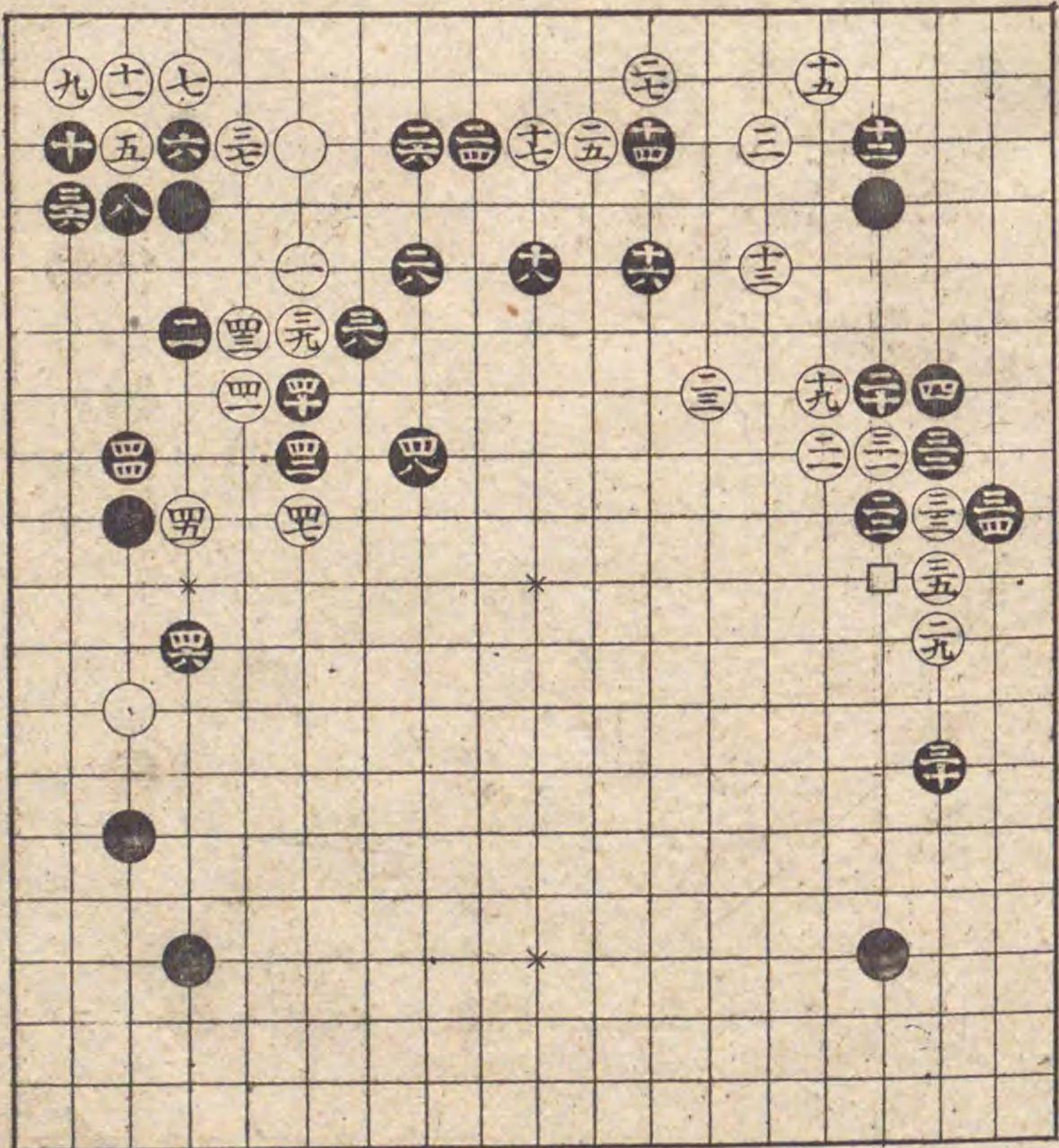
黒六四と打手間々有
所なりまつすべから
は如斯なる時と自ら
手筋打能紛れし



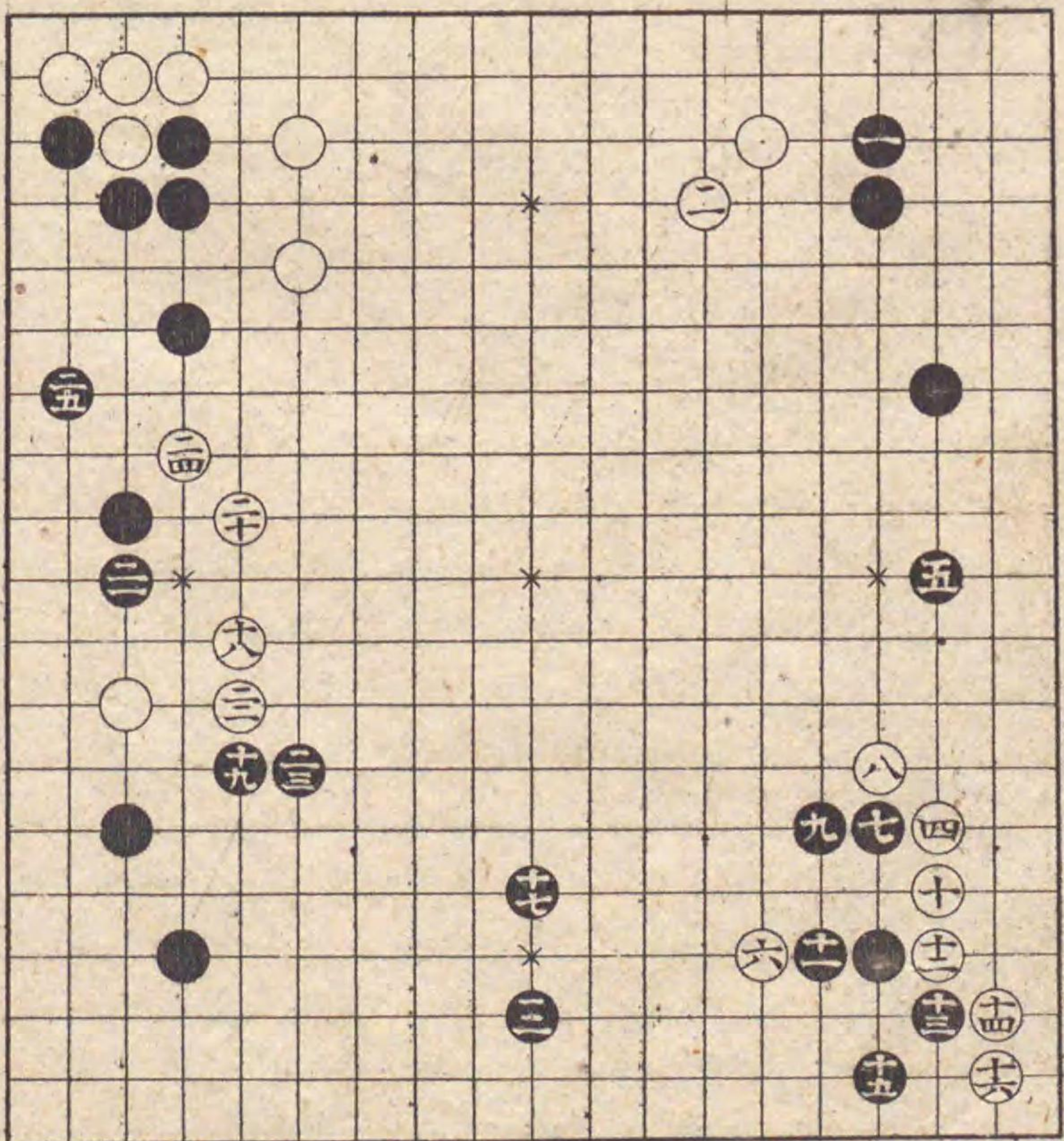
前番白二五の手とり
 りる
 如是替りても紛なし
 三六と中を飛とし白
 へさへさすして白手
 談なし



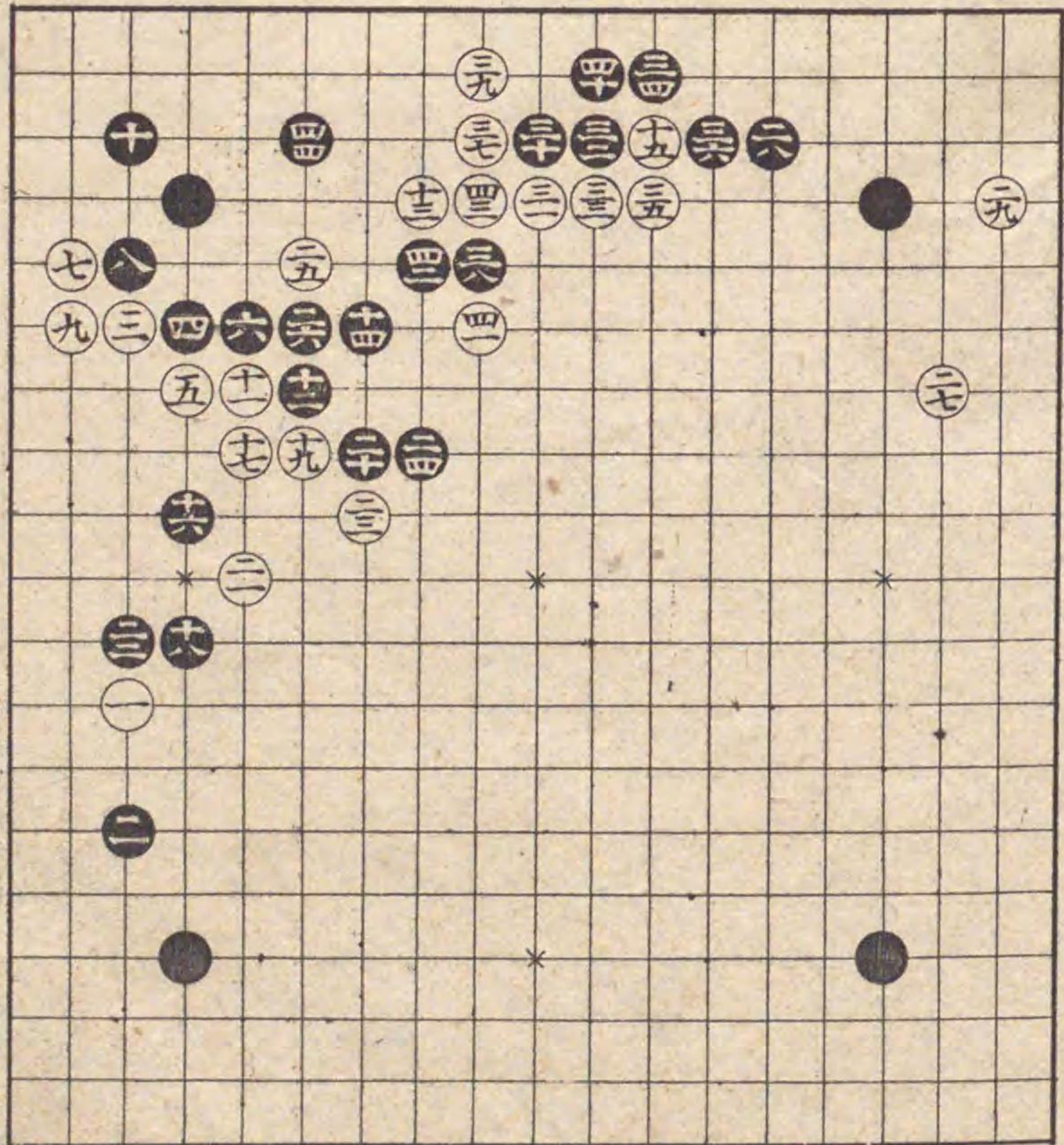
本番白五の手とり替
 る
 黒三四の手口印へ打
 手も有乍去三六の手
 へ打此もやうに打た
 れ故をねて打こいつ
 れふても宜し黒四
 四の手めらまやうふれ
 とも後打よれ手なり
 急は留るときは却て
 手筋むつりとき故如
 是打こ



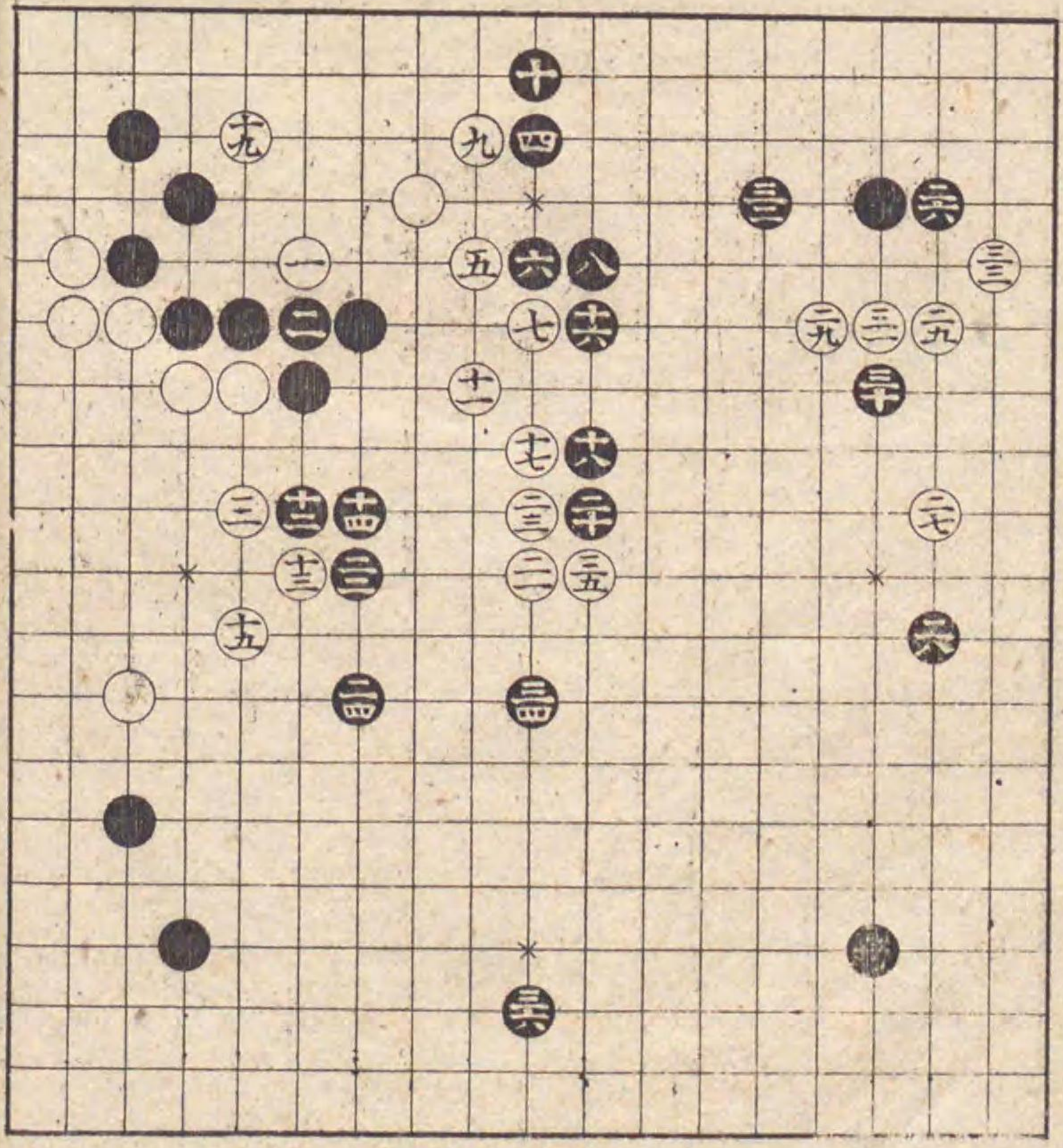
前番白十三の手より
替り
此石立黒位とし



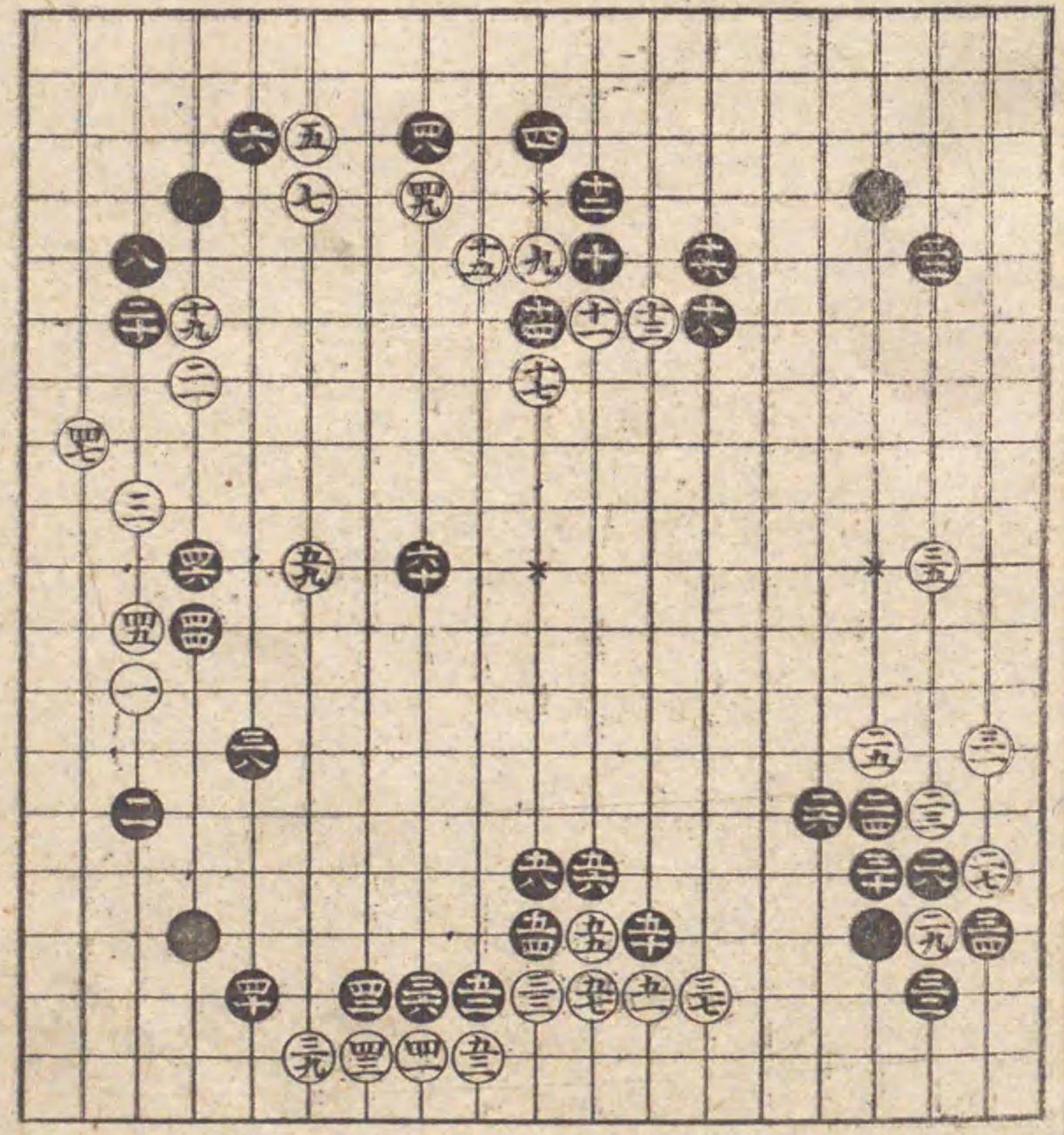
十六の手筋前記の通り
大切の所なり忘る
へるらば



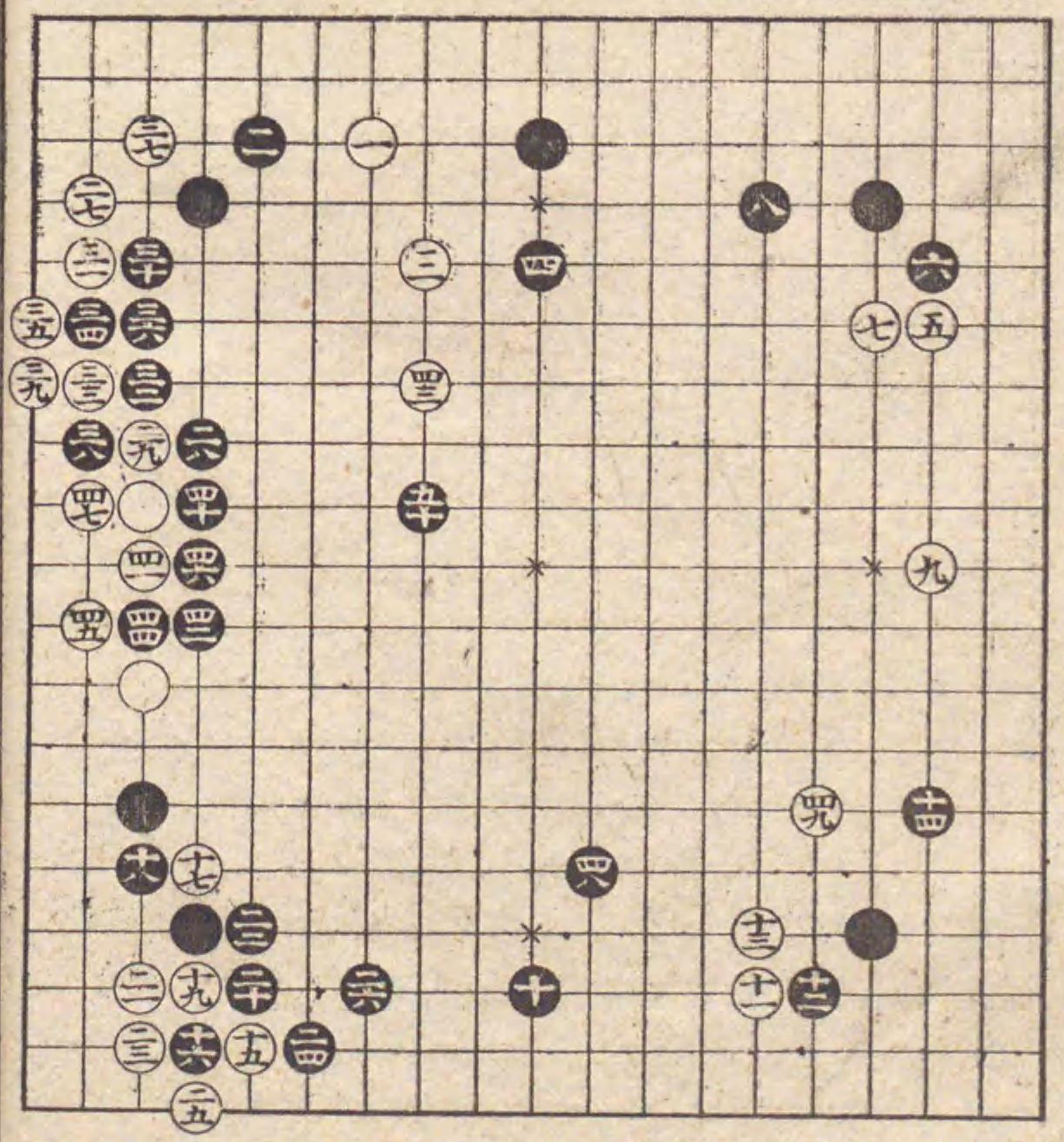
前番白十五の手とり
替る
此石立大位ふして手
成心打能手談へ



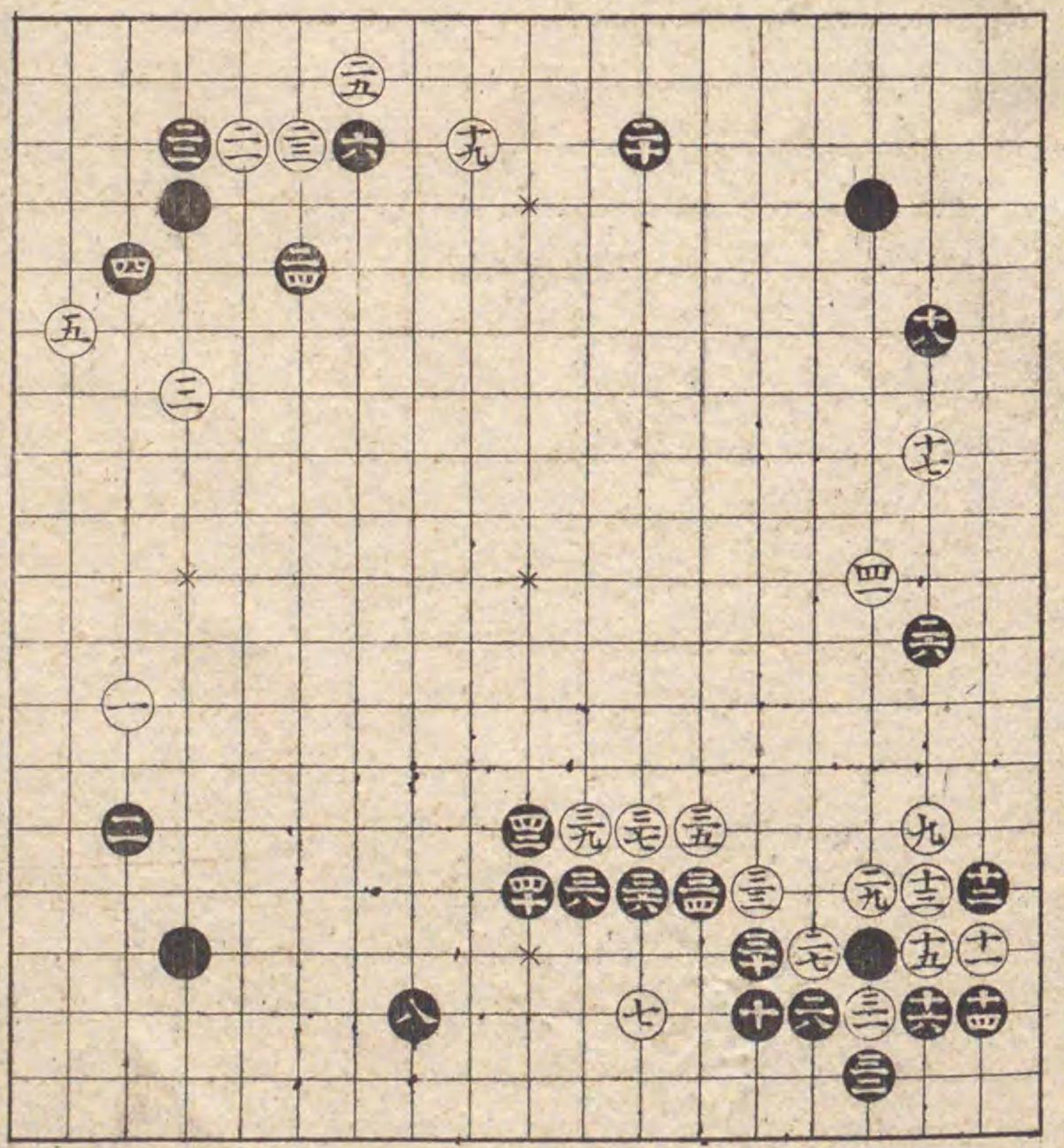
十四の切捨置如此打
手筋間々有心得べし
五十と打上より打手
筋有となり考へ打へ
し



前番白五の手より替
 三
 十と打手筋常亦有大
 位不して白流りへる
 故のりすへせらば



黒二八の手談ハ七の
 白を隔て打趣向なり
 四二の押吉常亦有手
 筋こまつ死へりらば



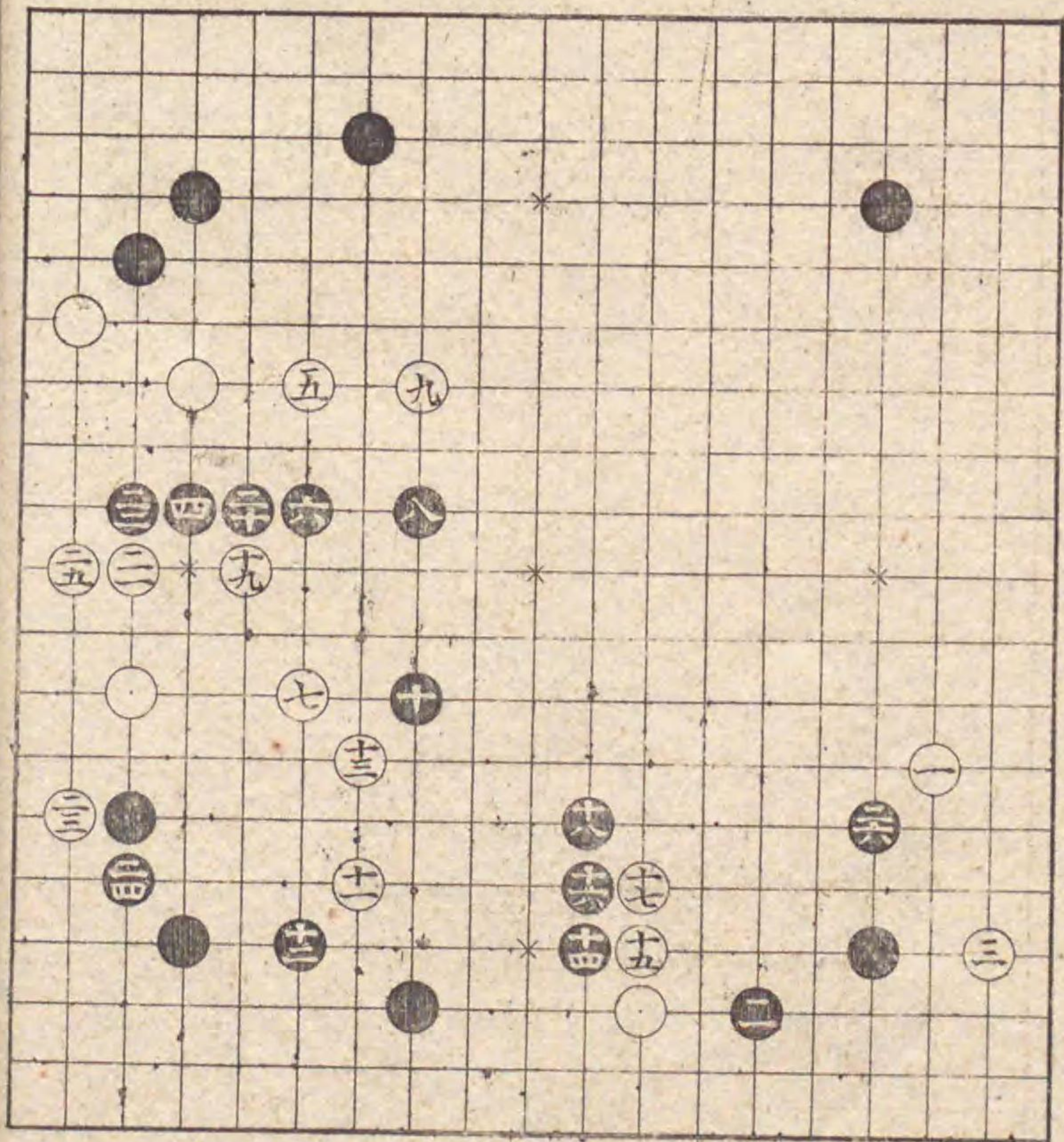
◎置 其 局 自 在

四 目 置 之 部

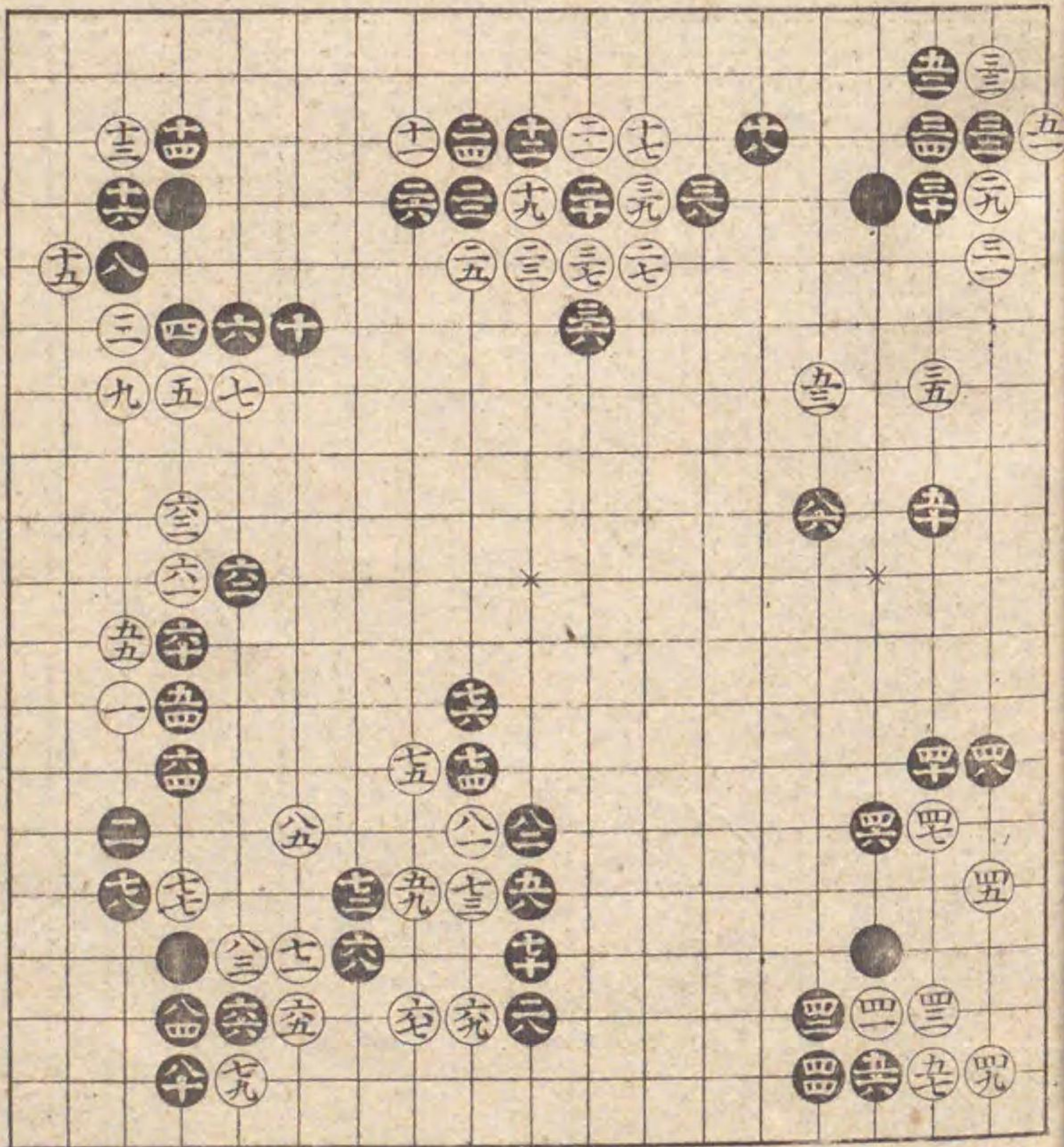
◎世 二

方 圓 書 房

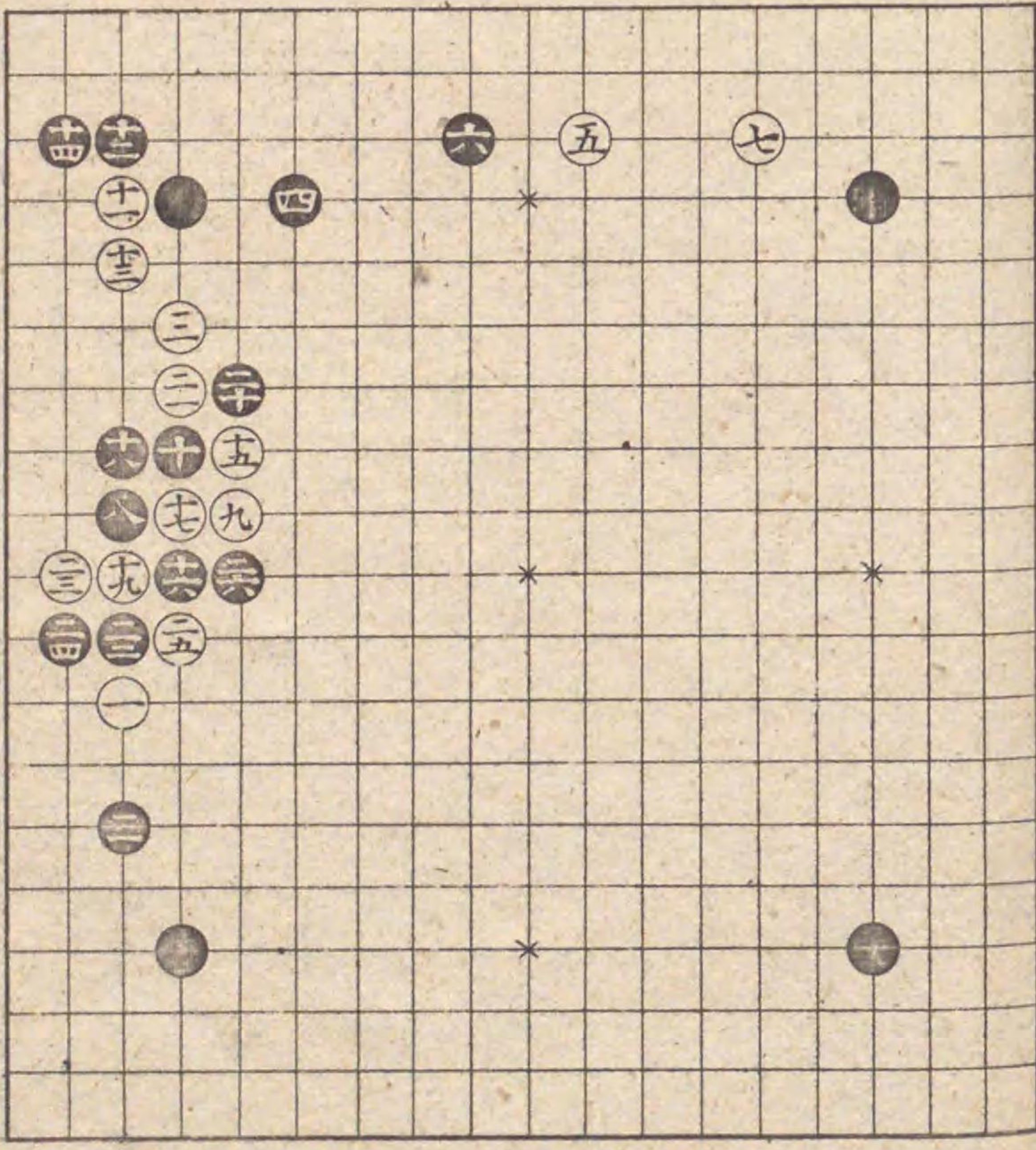
前番白九の手とり替
る
白三の所を捨置白の
うひき処を打込如此
打手談も有りすへ
ららに手筋を考へ打
へし打込をくれてハ
手談相違してぬるま
と間々有能々考べし



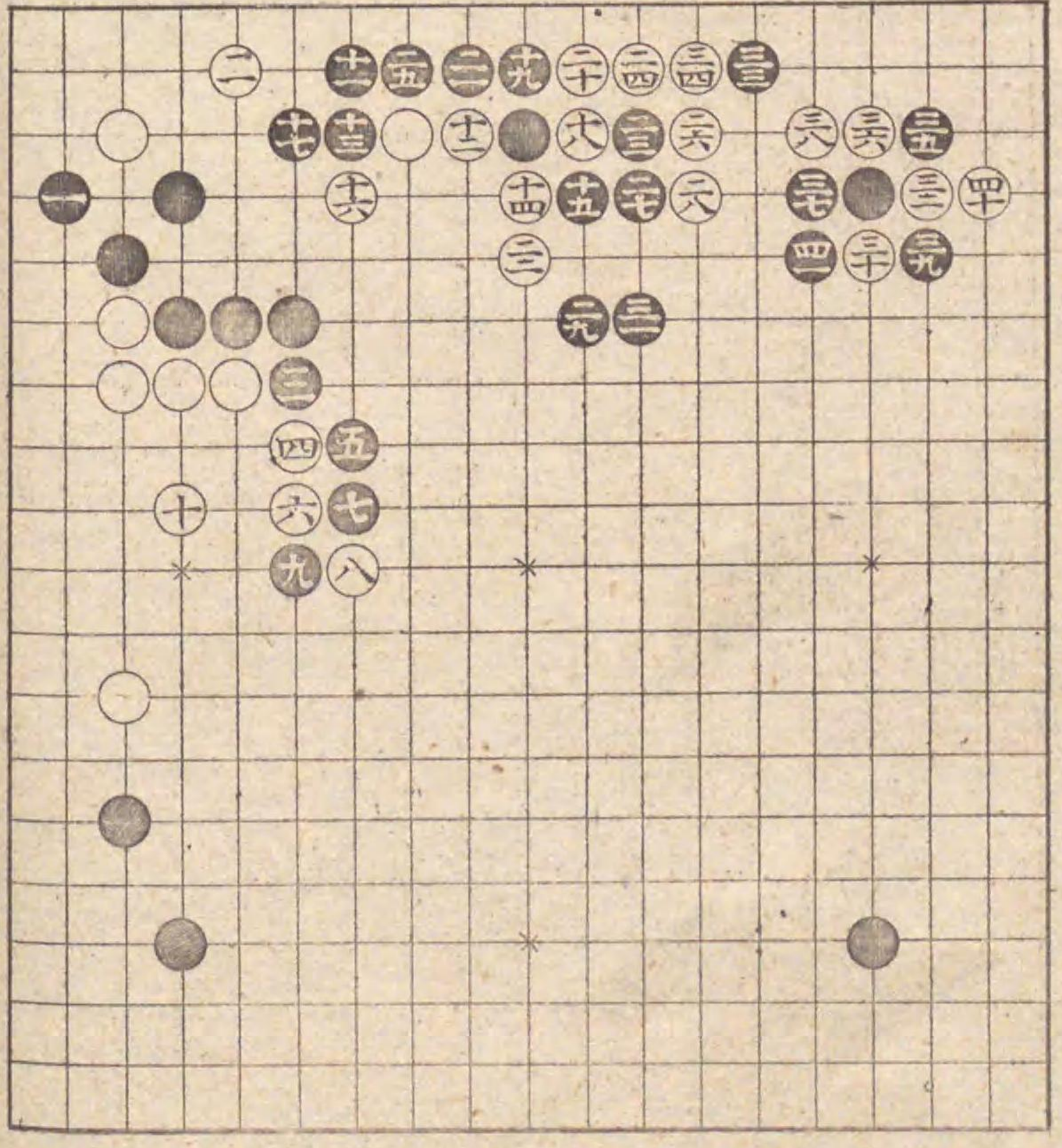
二八と打事大位の趣
向之前小記す通り手
筋をのづら打能へ



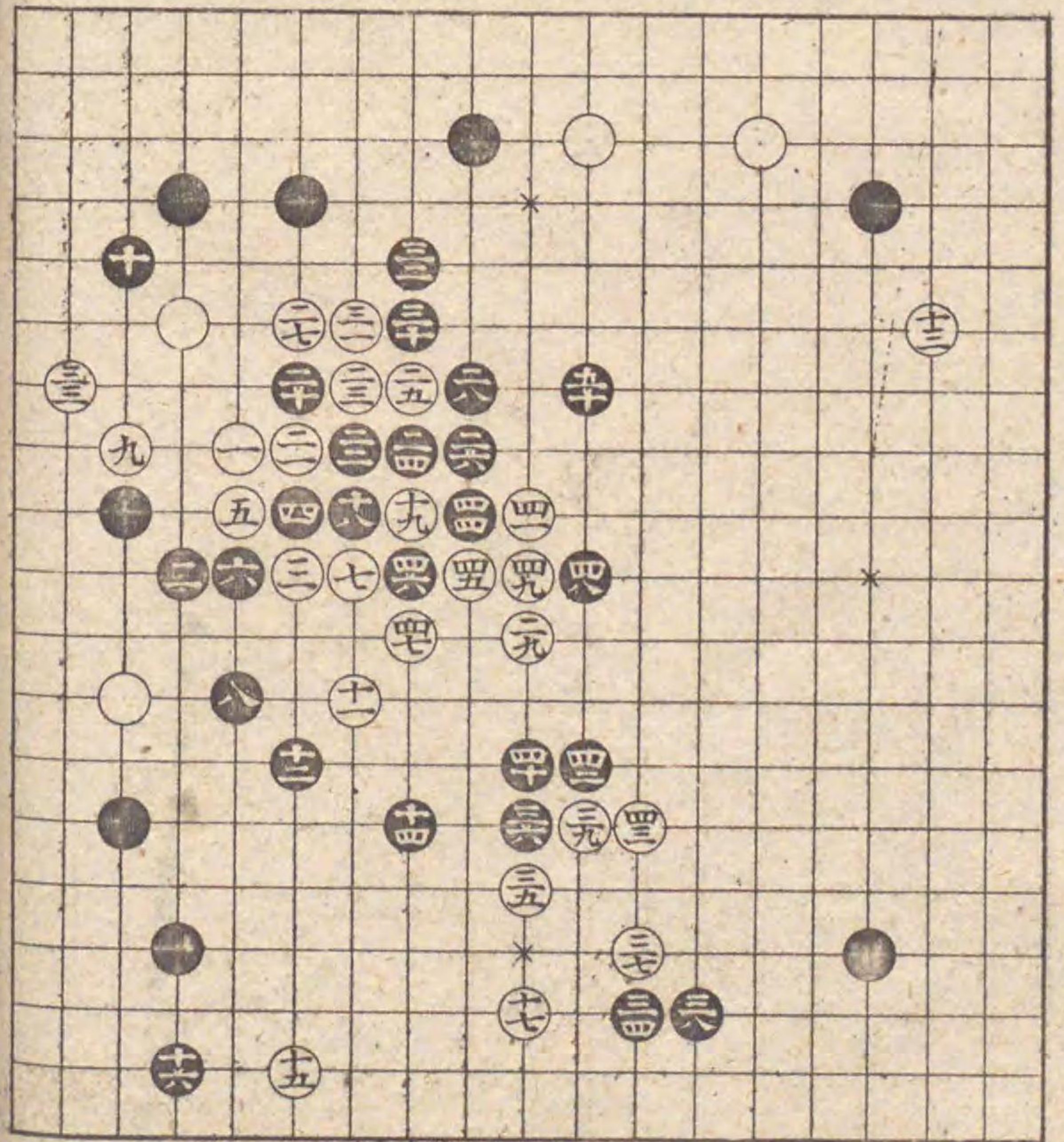
白十九切無理あり二
 三二四と先へ捨て打
 ハ征ふかりて白打様
 たり替古のため記之



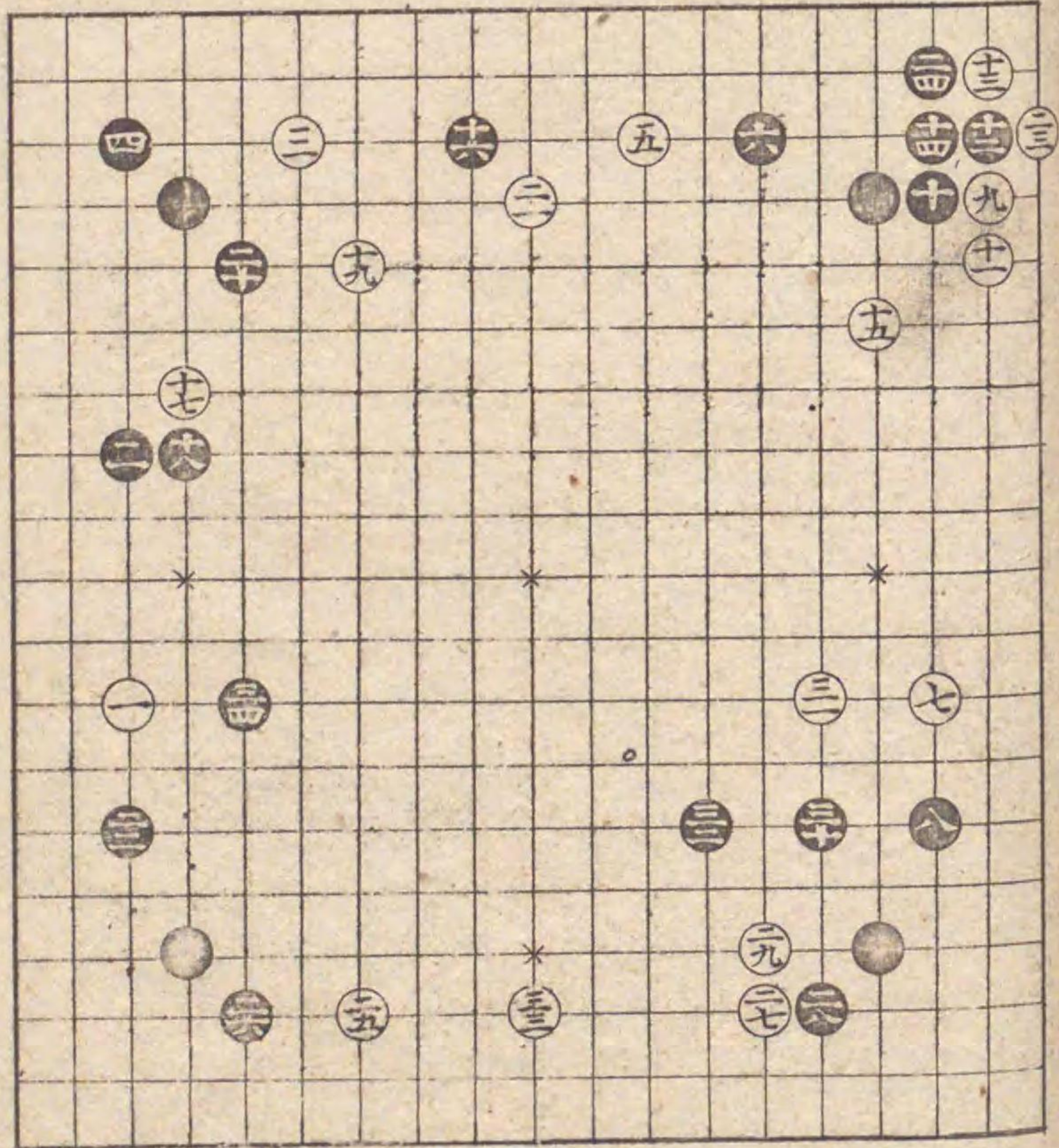
前番黒十四の手より
 替る
 々様小急に征ふ掛る
 時先小二三ともねて
 打と間々有心得てよ
 し二三の手打置時ハ
 如此かりて黒大小吉
 心得べし
 二三の手吉



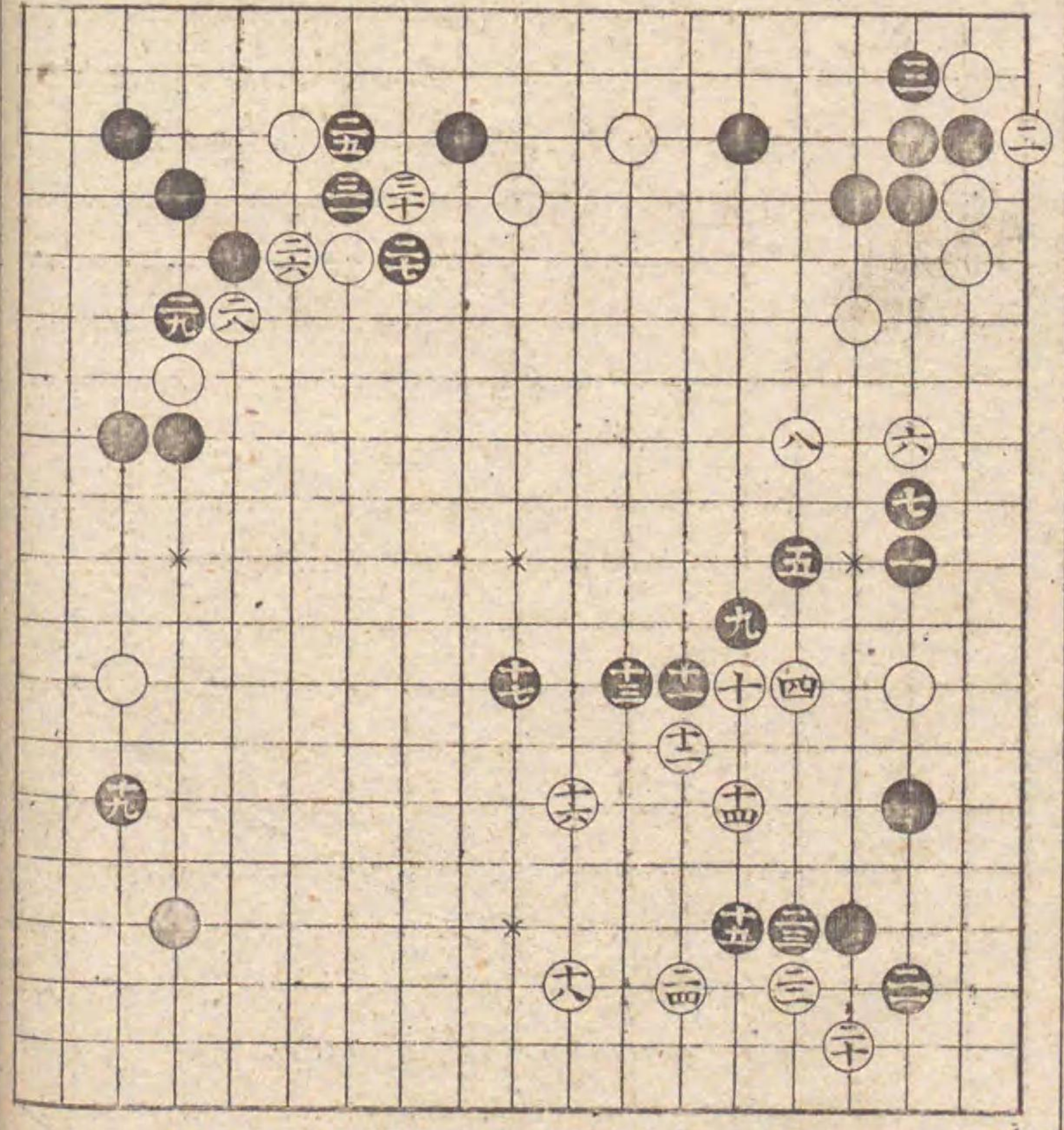
前番白丸の手とり替
 十八と中の石を強く
 隔て打と間々有と也
 もづはべりらむ手筋
 已自ら見ちるやうふ
 ちるものなり心得考
 ふへと



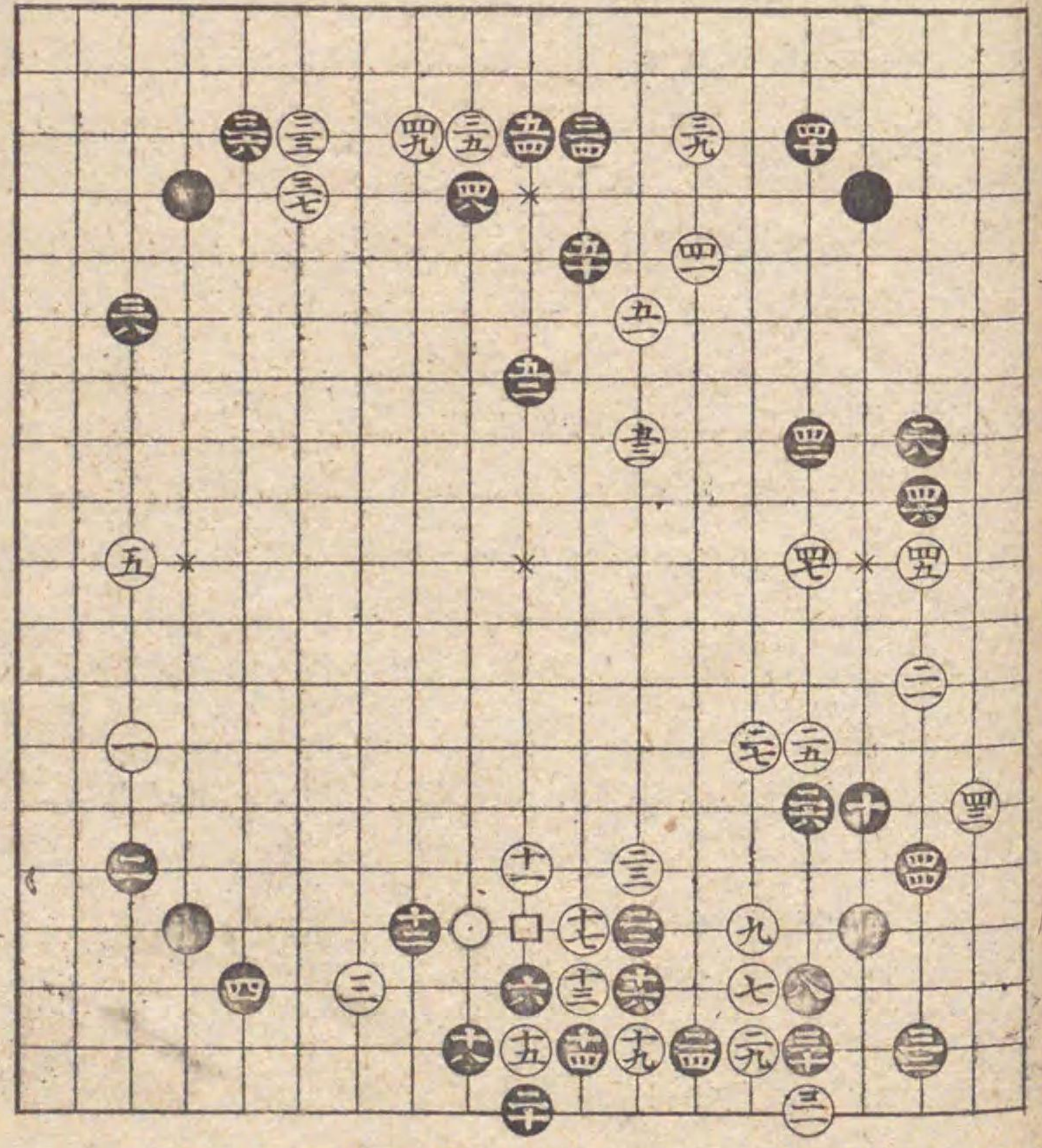
十八の押ある故三四
 吉
 二十吉



前番黒二二二の手と
り替る
如是強く打込てもよ
し二五の仲間々有手
筋なり心得べし



白十一の時口印へ打
もよし○印へ尖り打
も吉去如斯くても
吉十六と軽くはねて
如是替りても大小と
し



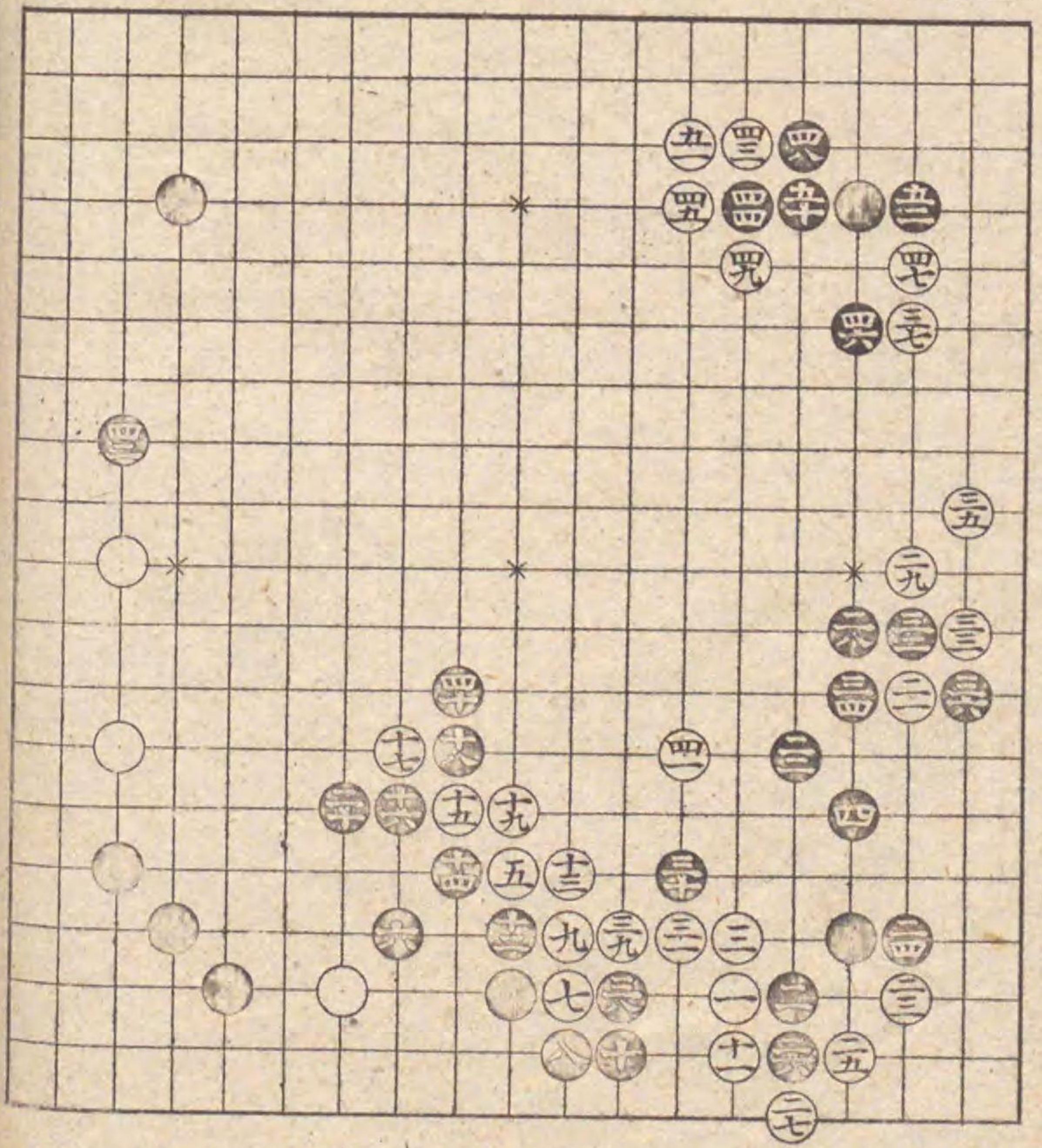
◎置 其 自 在

四 目 置 之 部

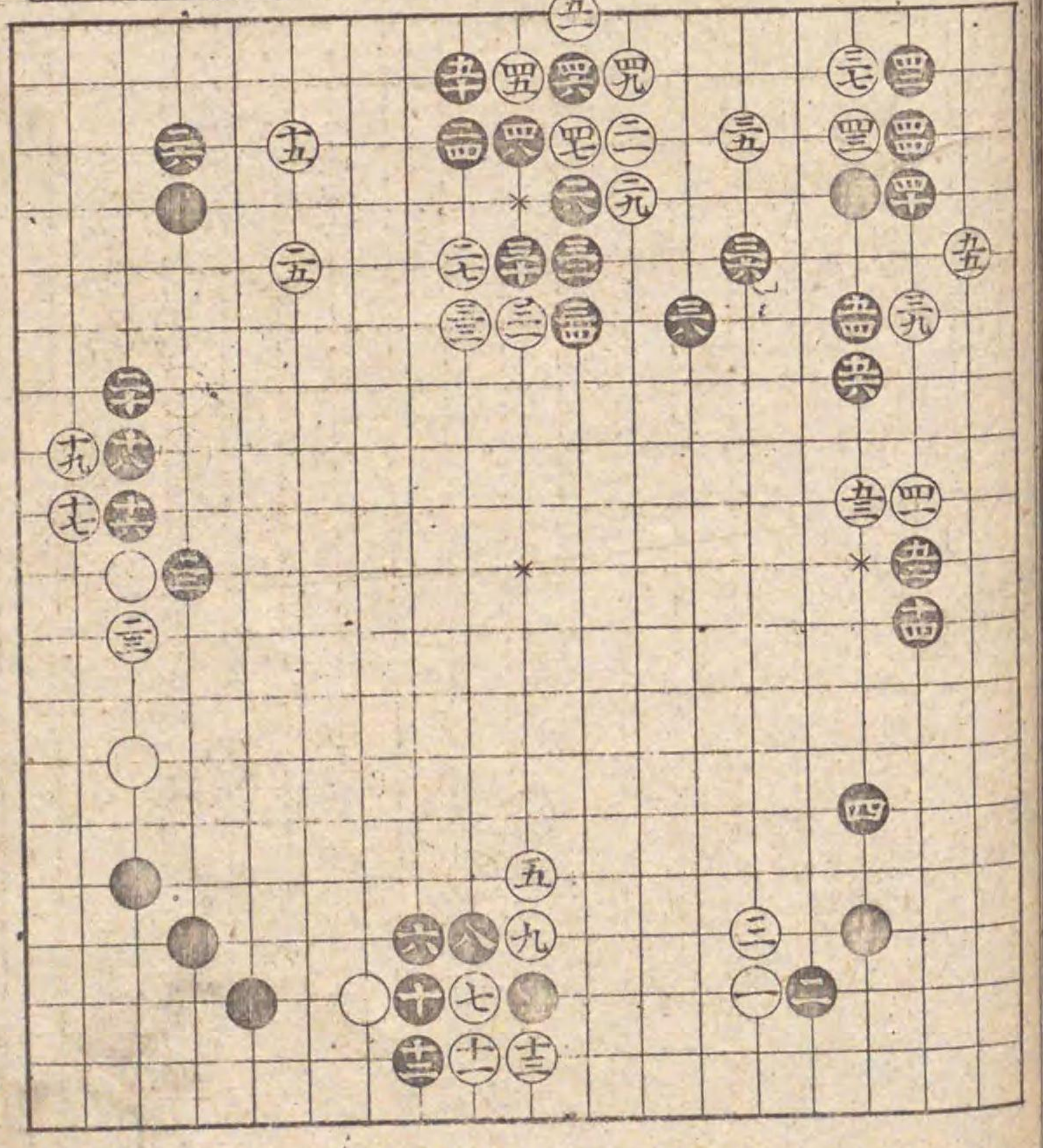
◎ 世 六

方 圓 書 局

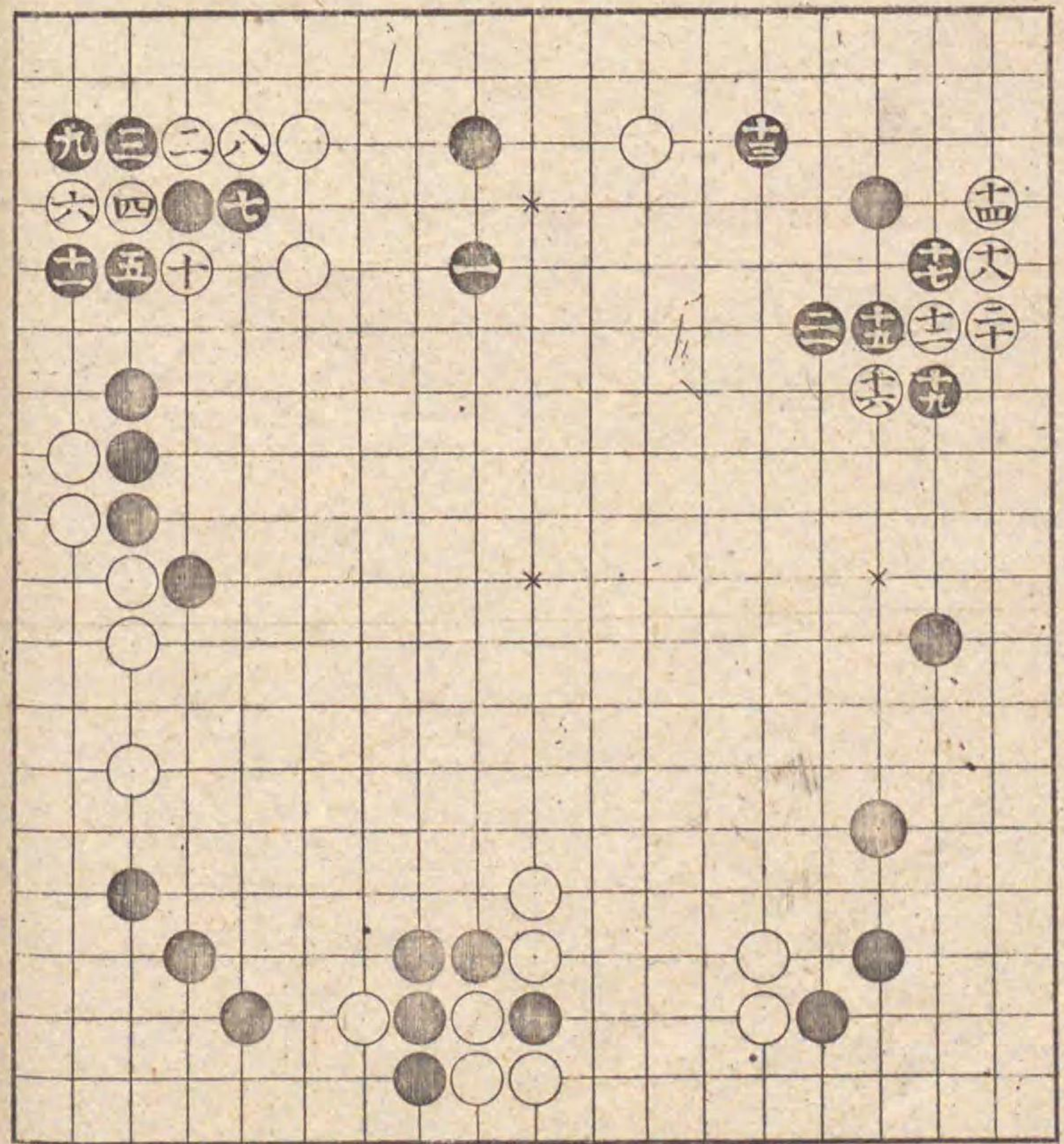
前番白十五の手とり
らむら
九と白引八黒十二と
打手筋吉



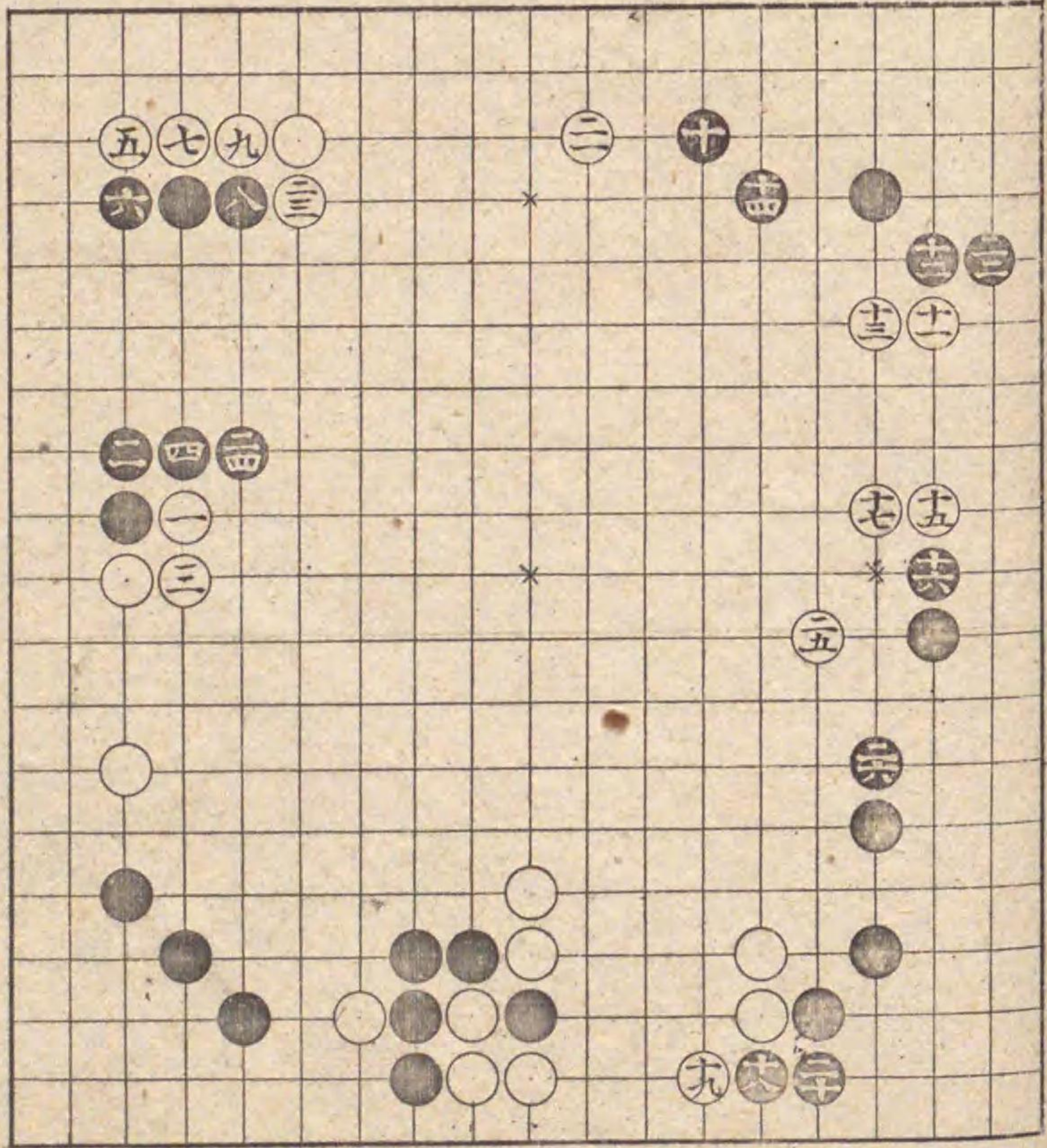
前番白七の手とり替
る
種々振替り手筋を
らべをくなり考へ心
得を



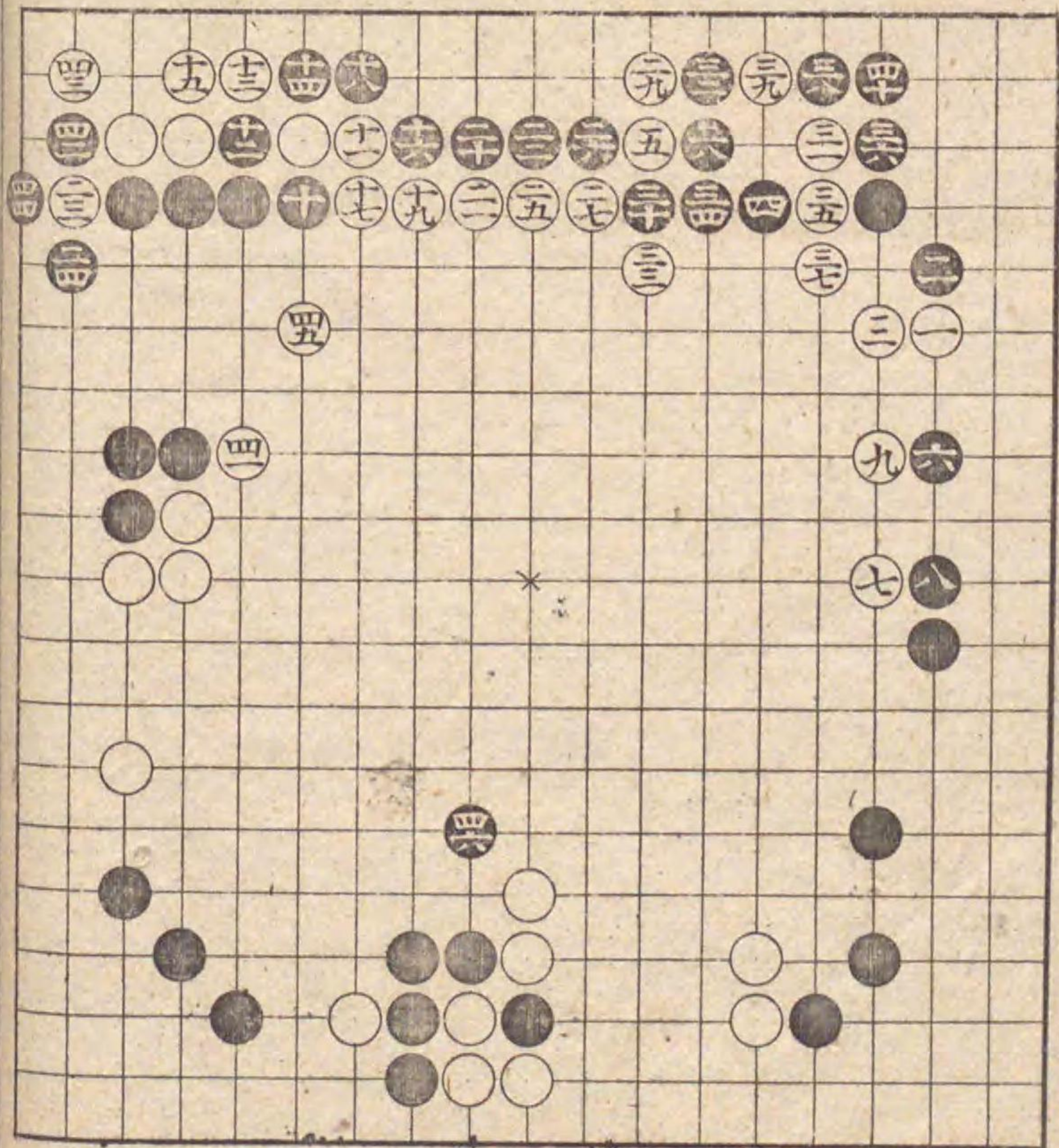
前番黒二六の手とり
りまろ
此石立大小吉



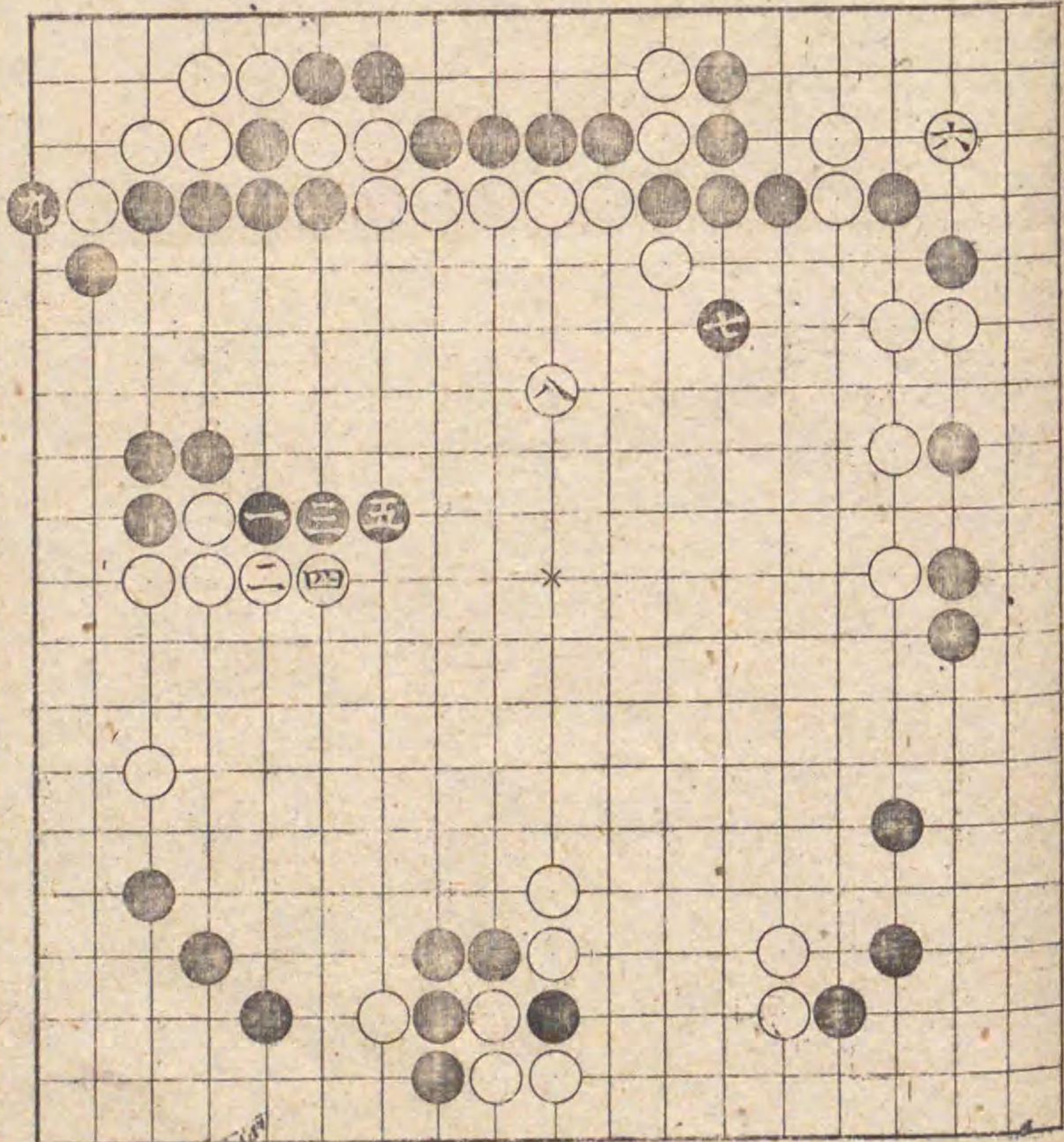
本番とり二番目の白
十七の手とり替る
此石立黒大小吉



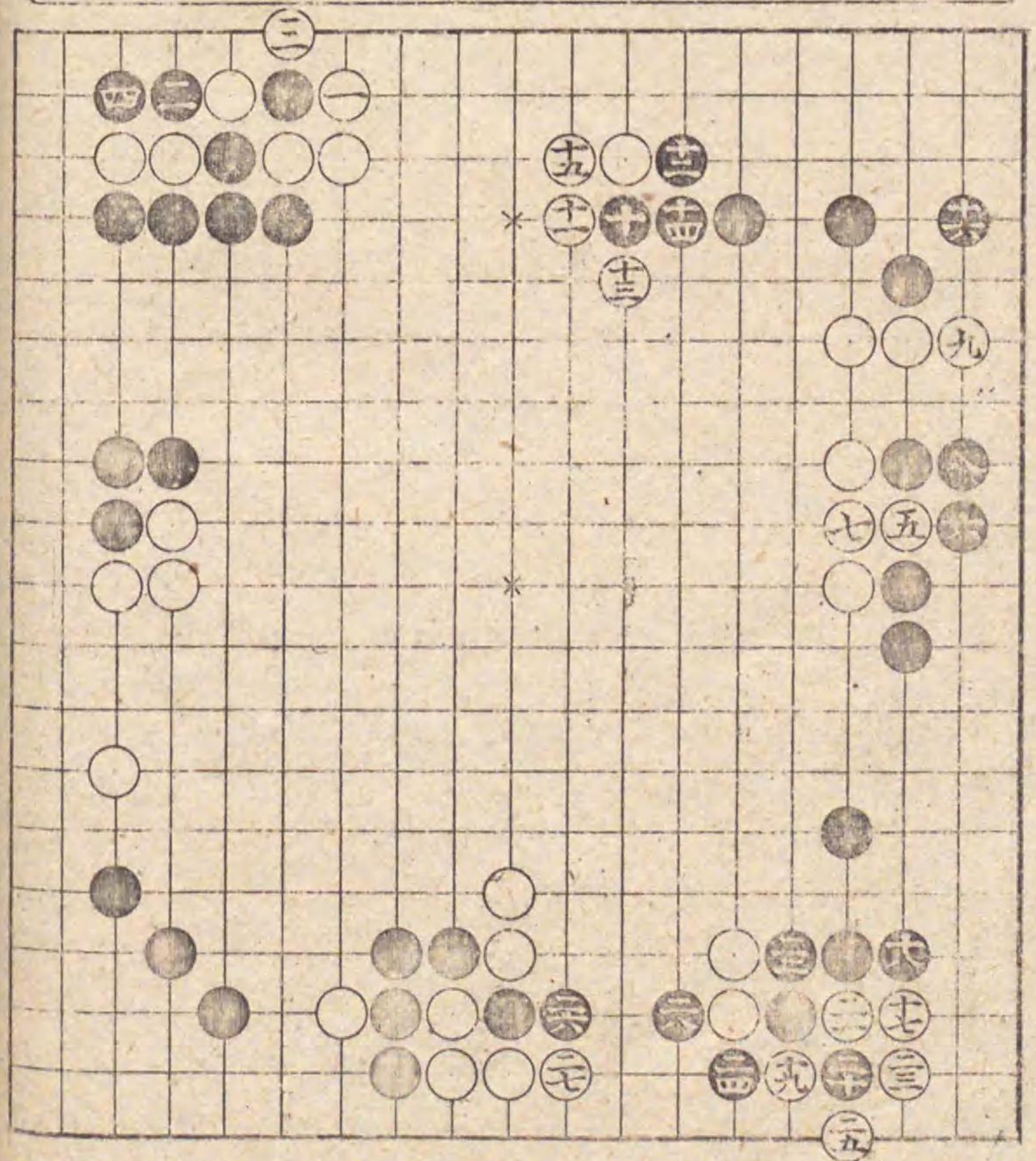
前番白九の手とり替
 如是ふりても宜し去
 ちがら少し白の位能
 故打ふくし次小記



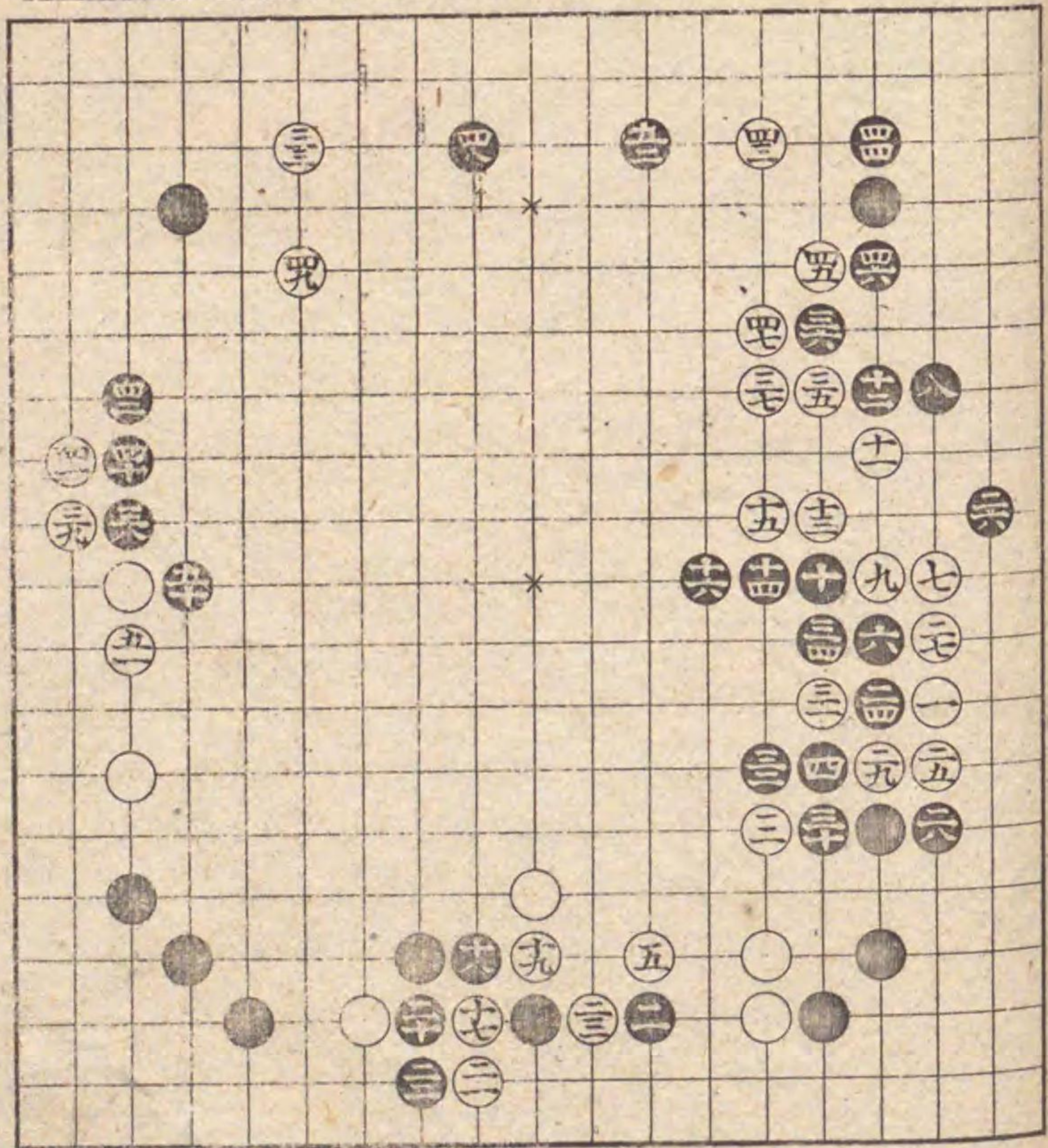
前番黒三六の手とり
 替る
 黒如斯白へ六と打せ
 中へ出打ときハ手筋
 打よたこ考へ見るべ
 し



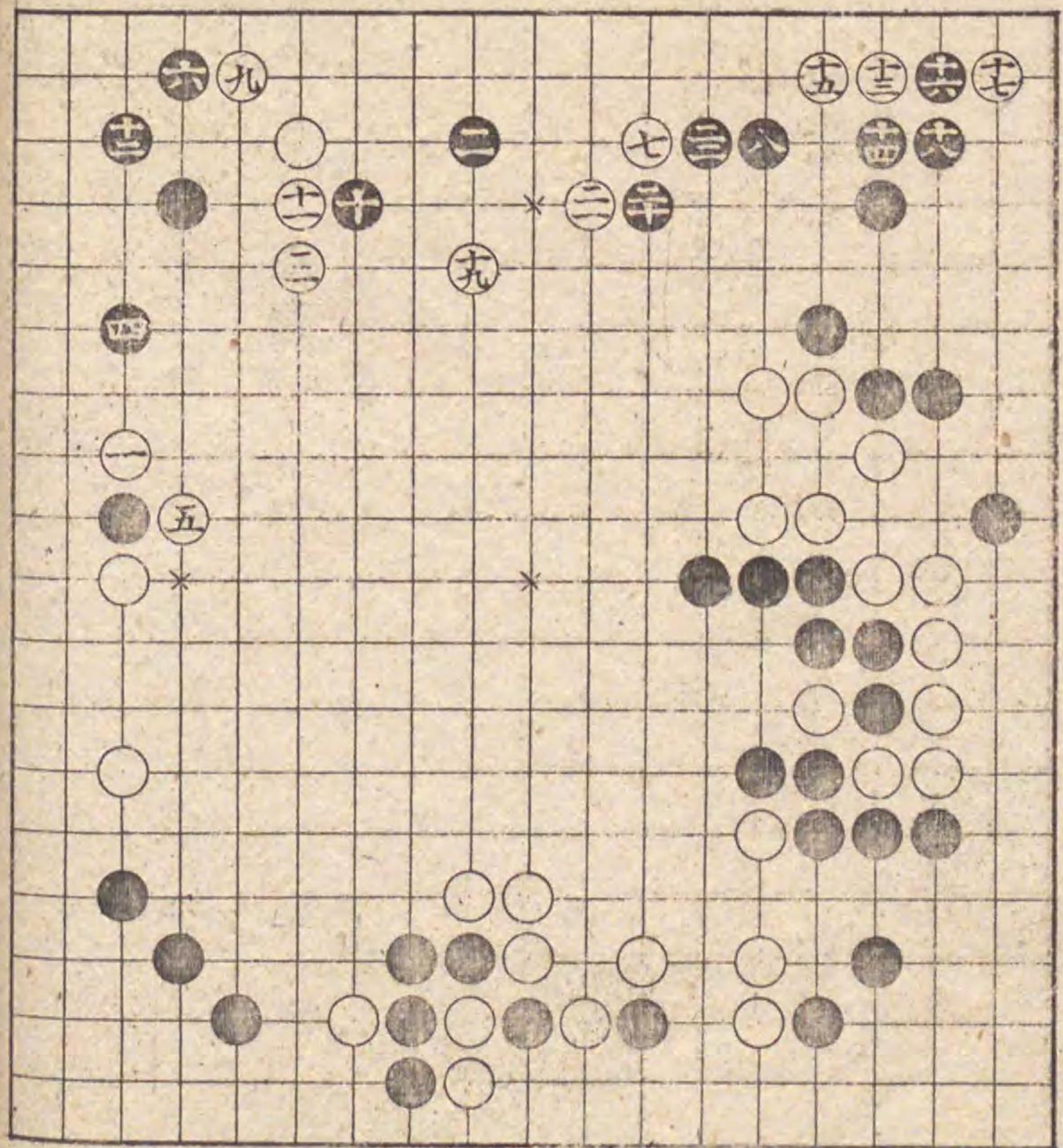
本番とり五番目の白
十五の手より替る
如是振替りてもよし



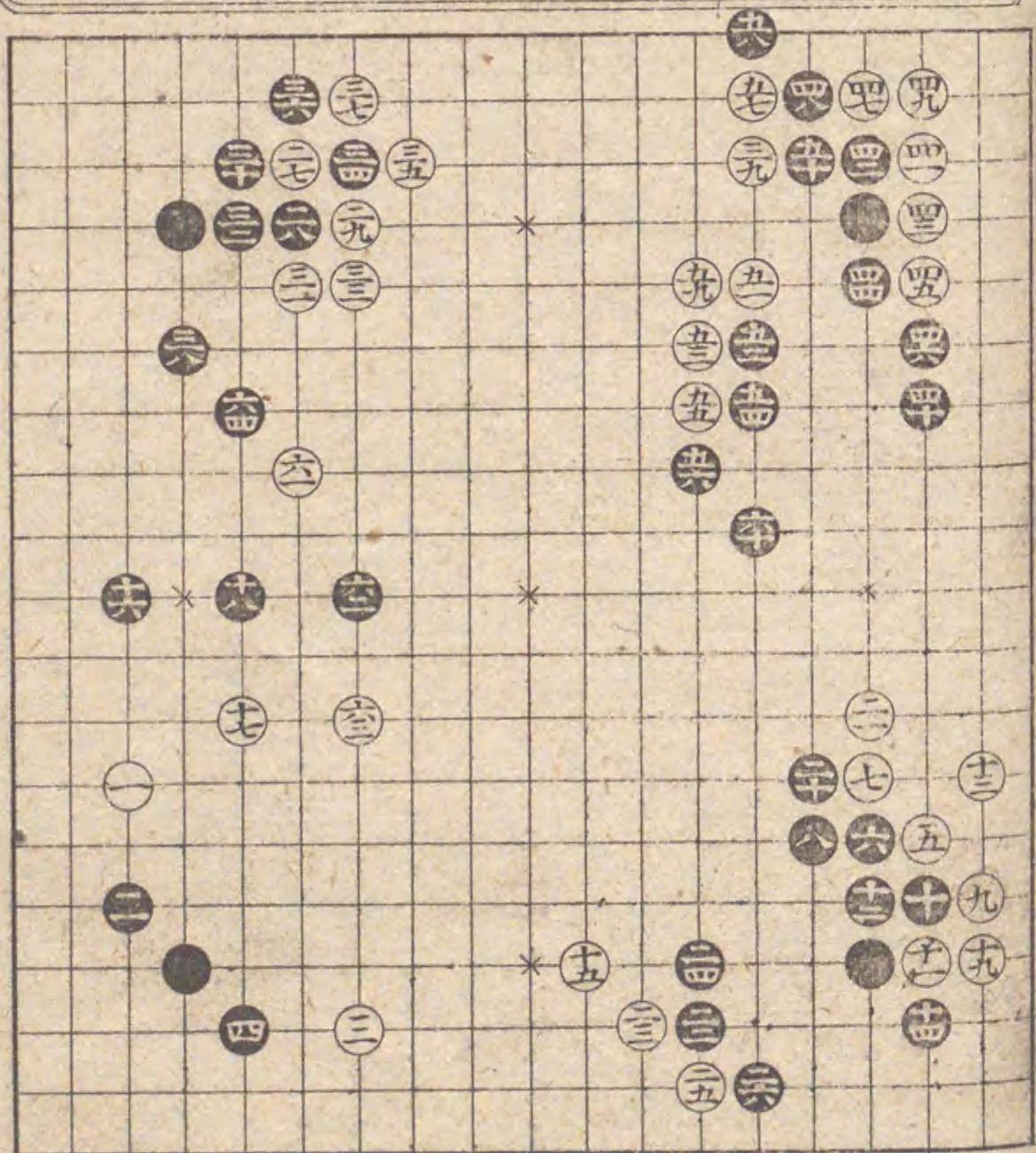
本番白十三の手より
替る
如斯方りても打てし



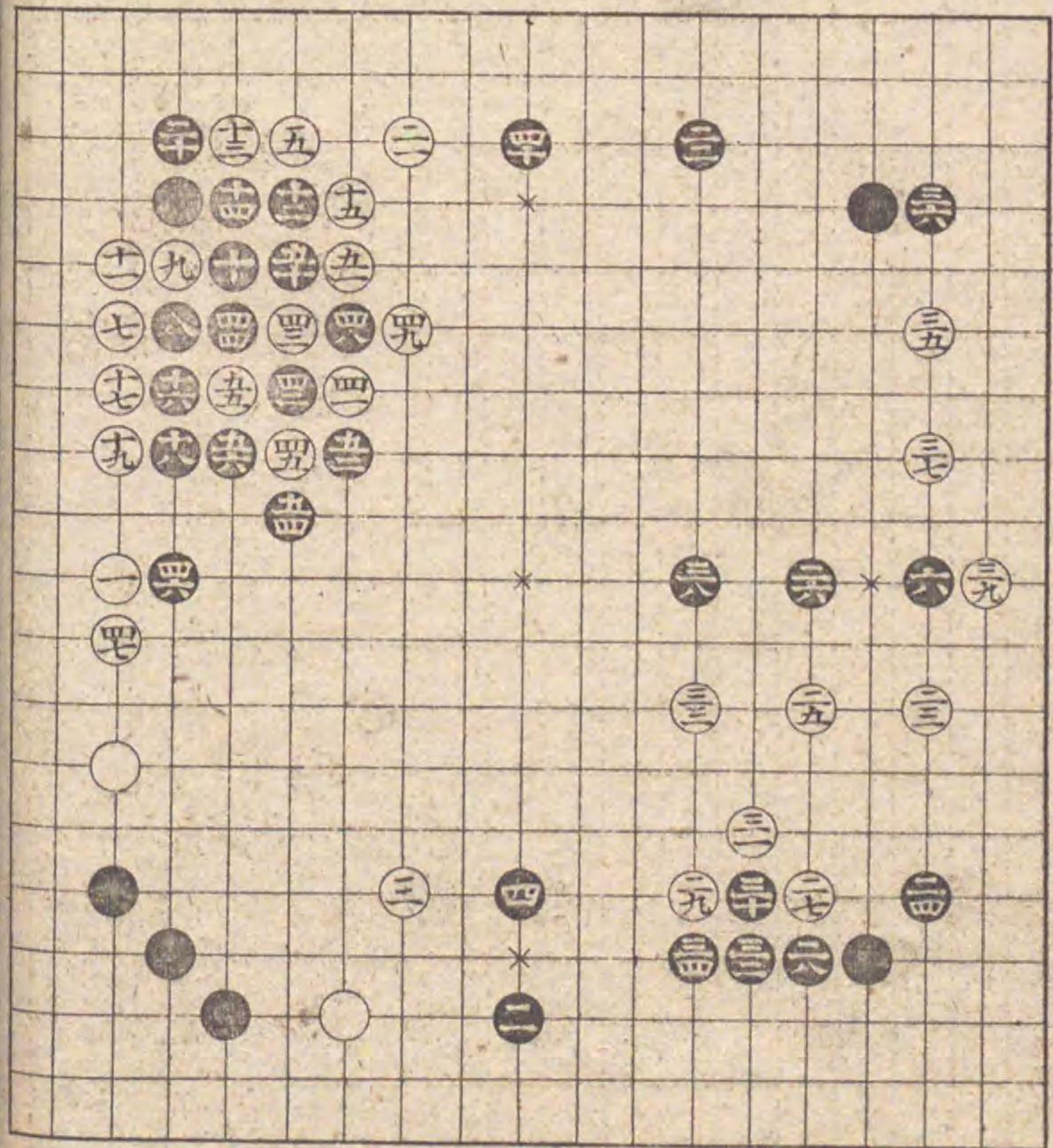
前番白三九の手とり
替る



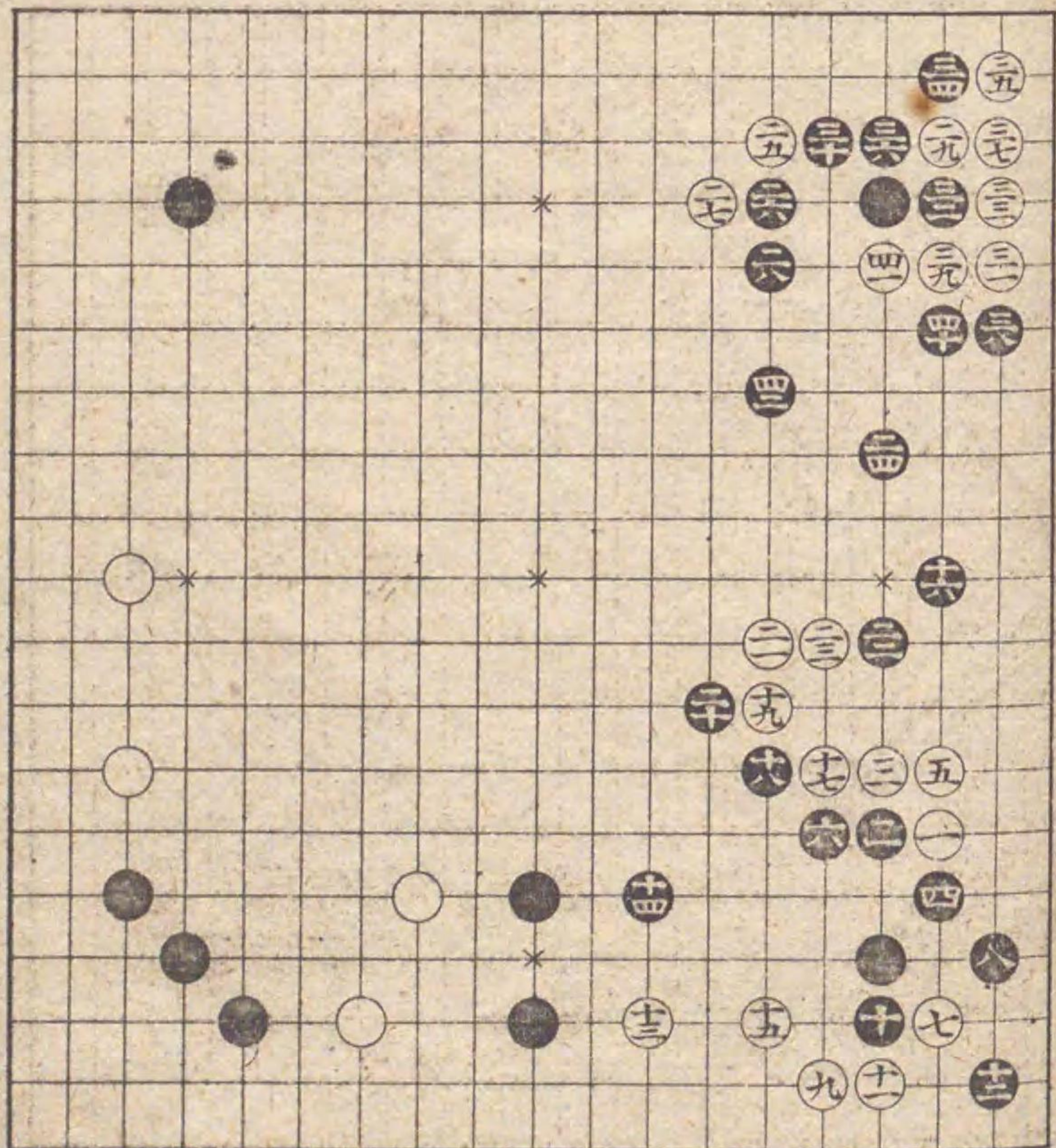
六四吉少しも白へ掛
り有手筋宜し如是所
間々有と心得て吉



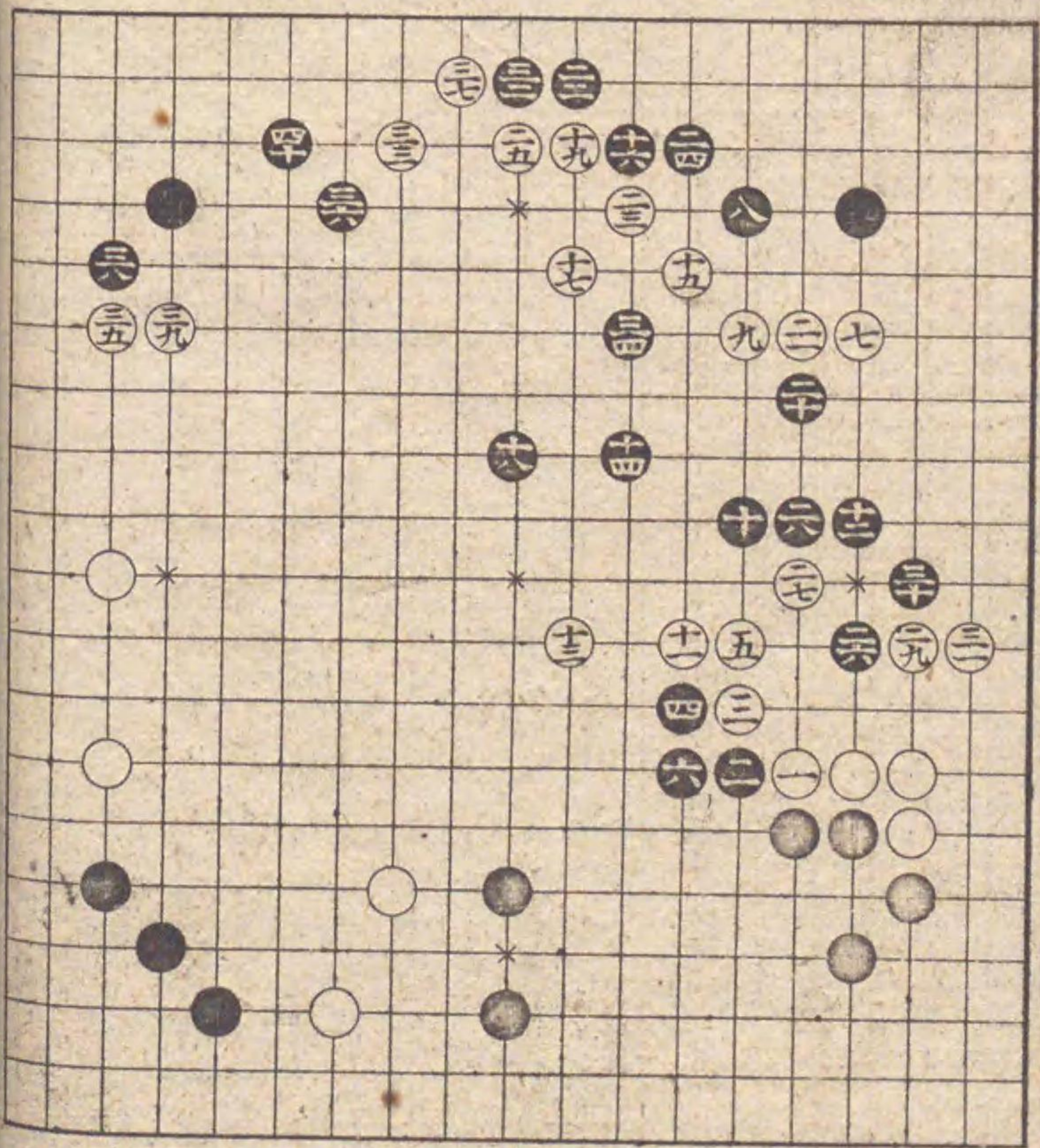
前番白五の手とり替
る
四二黒の手強くして
面白しかり次てハぬ
る
切とら



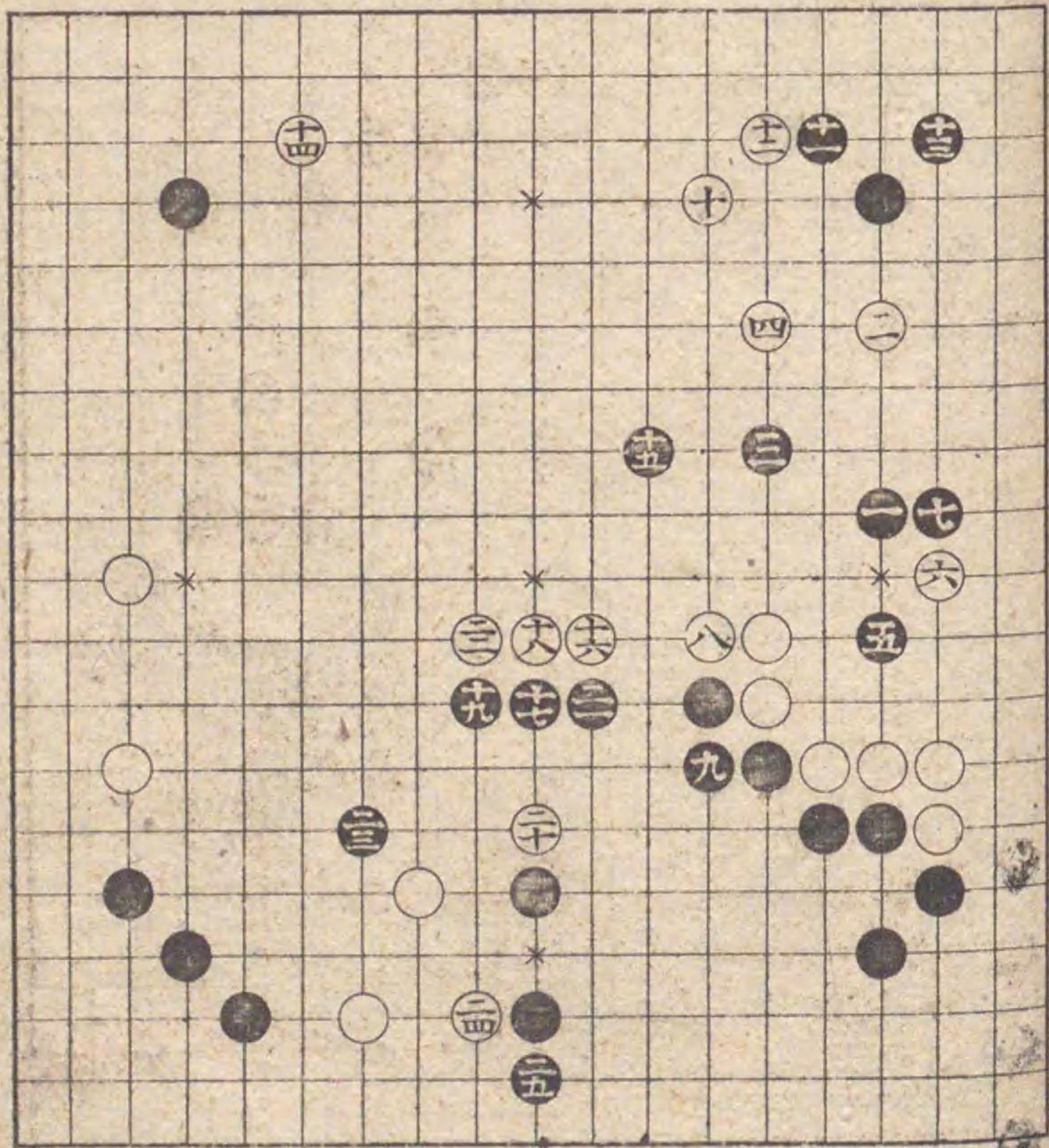
前番白五の手とり替
る
四十の手此所急し
て吉常ハ悪筋なり



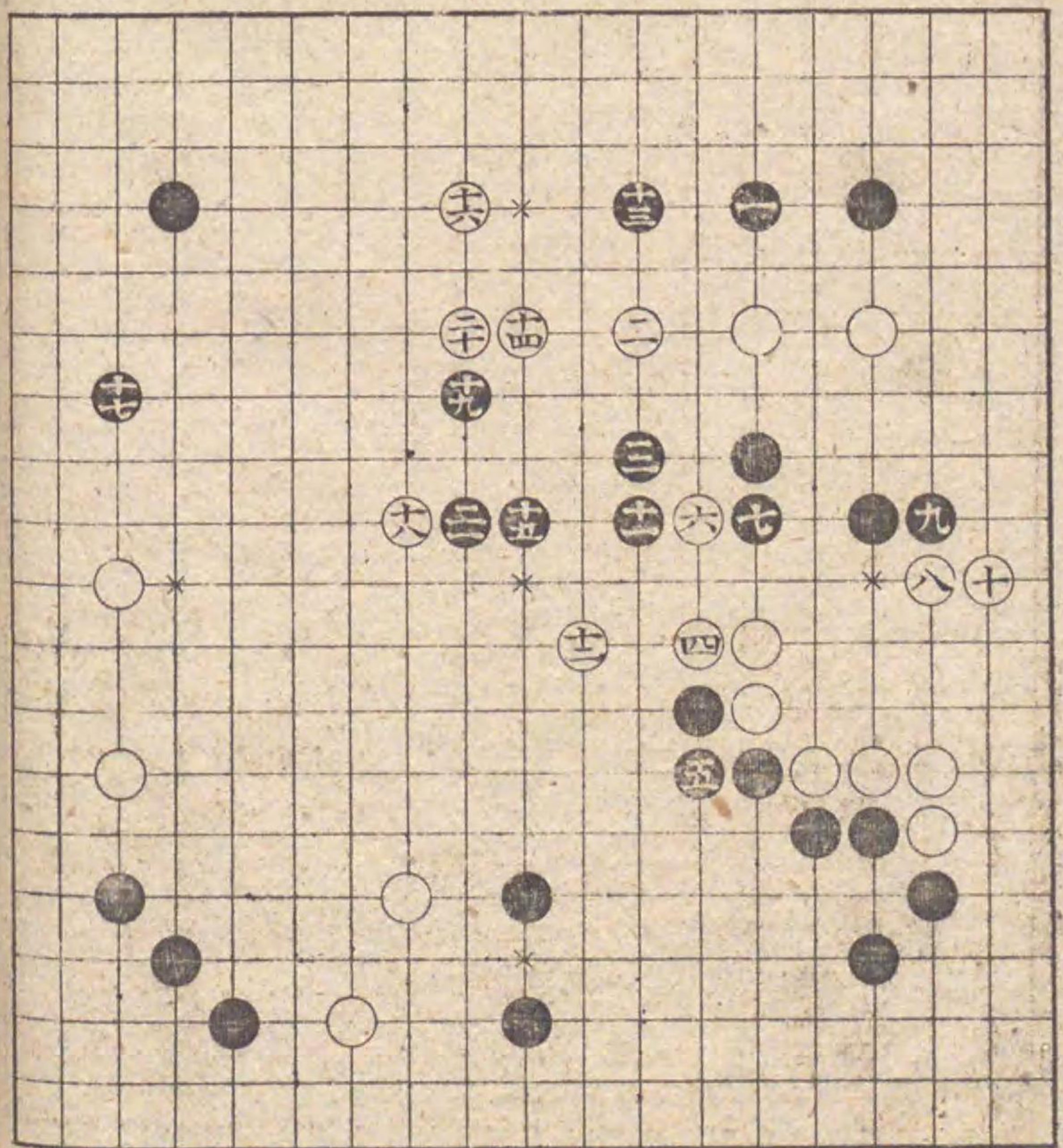
前番白七の手とり替
る
如是打込上へ出て打
手談も有此石立儘な
り



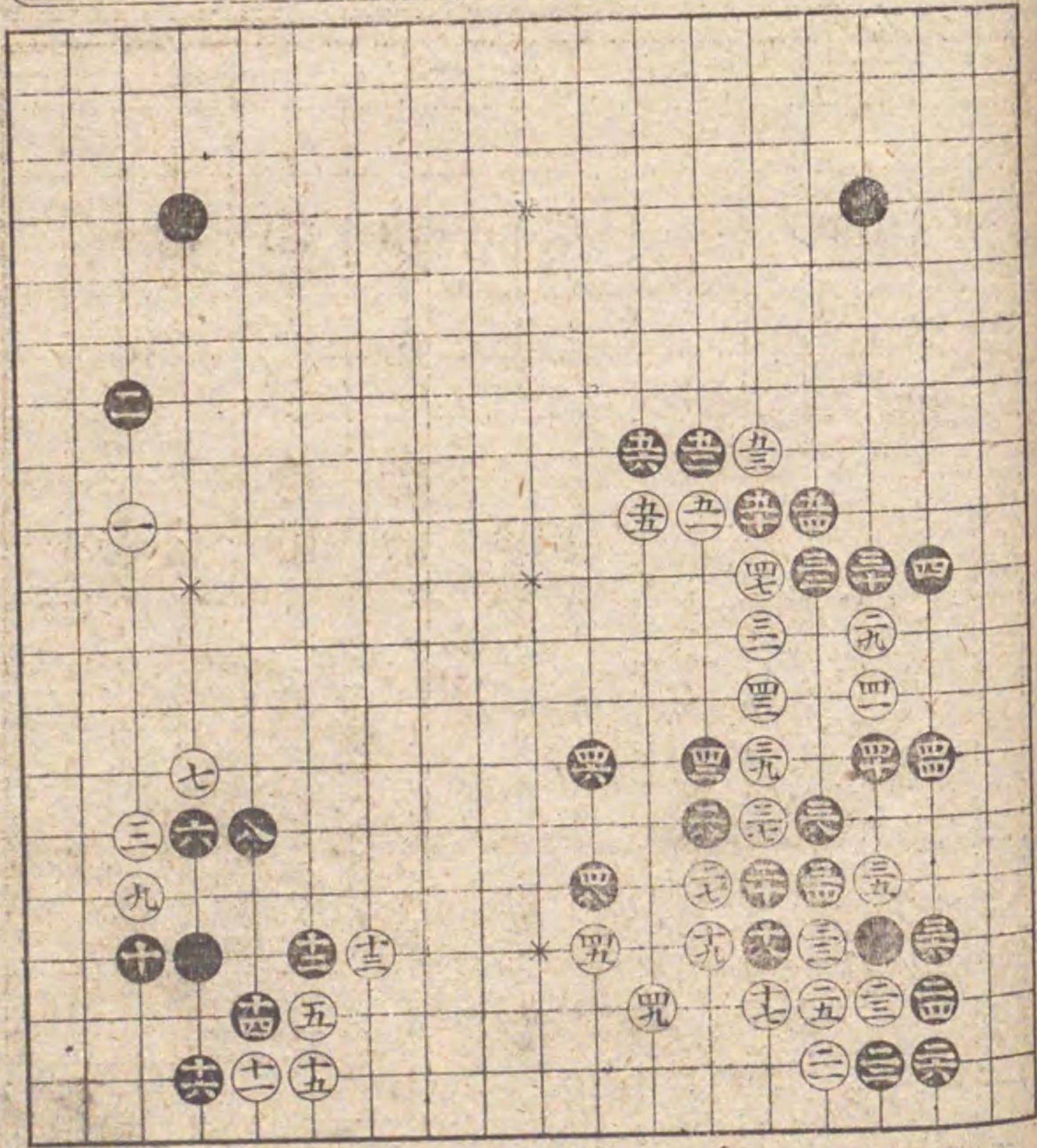
前番黒六の手とり替
る
此石立中飛打ときまハ
少とも紛れなく打と
り



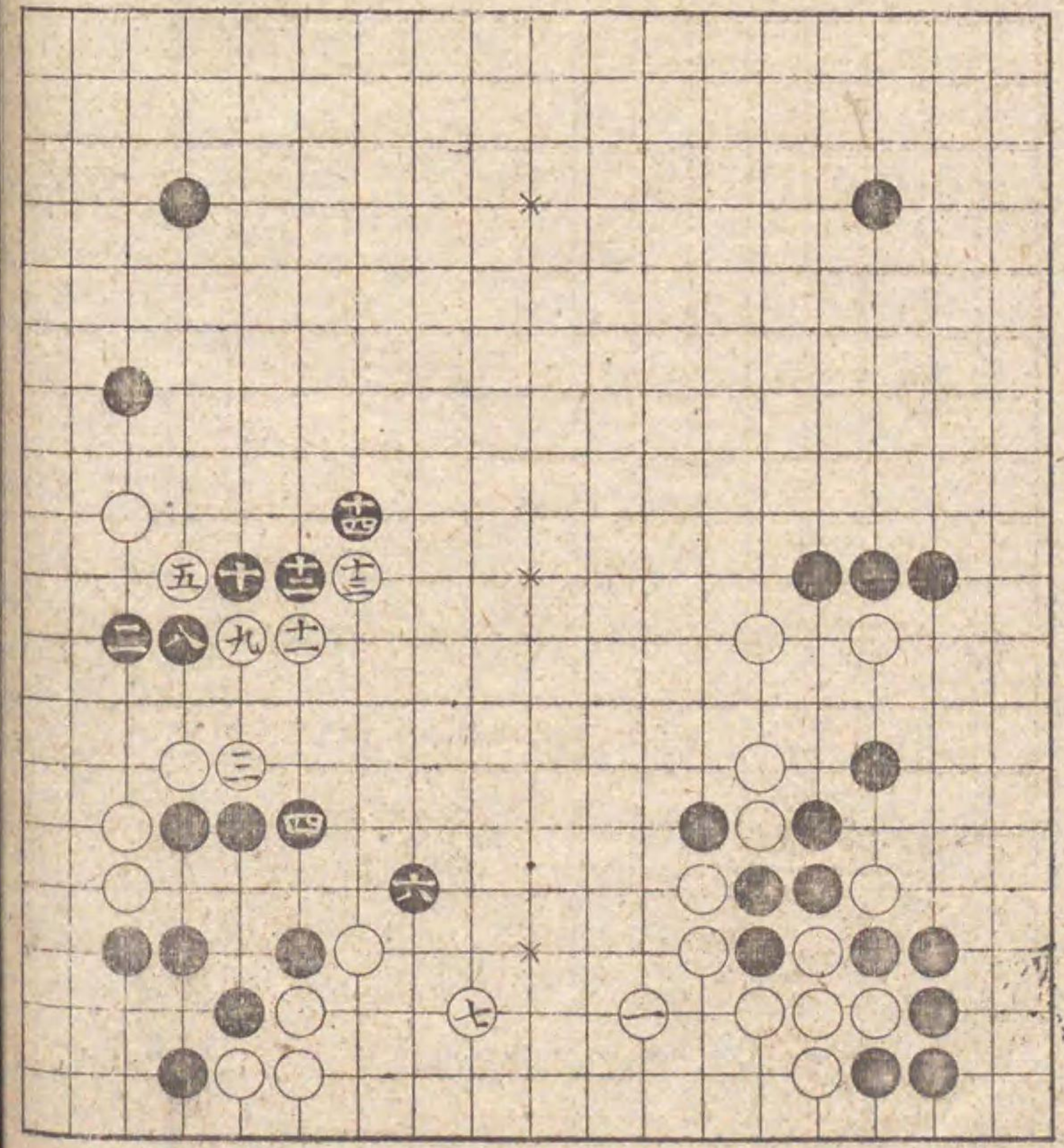
前番黒五の手とり替
 如是一と打中へ飛打
 ハ少も紛なし心得有
 へし二一と左右へか
 け次小可打手談海
 有也あろろへし



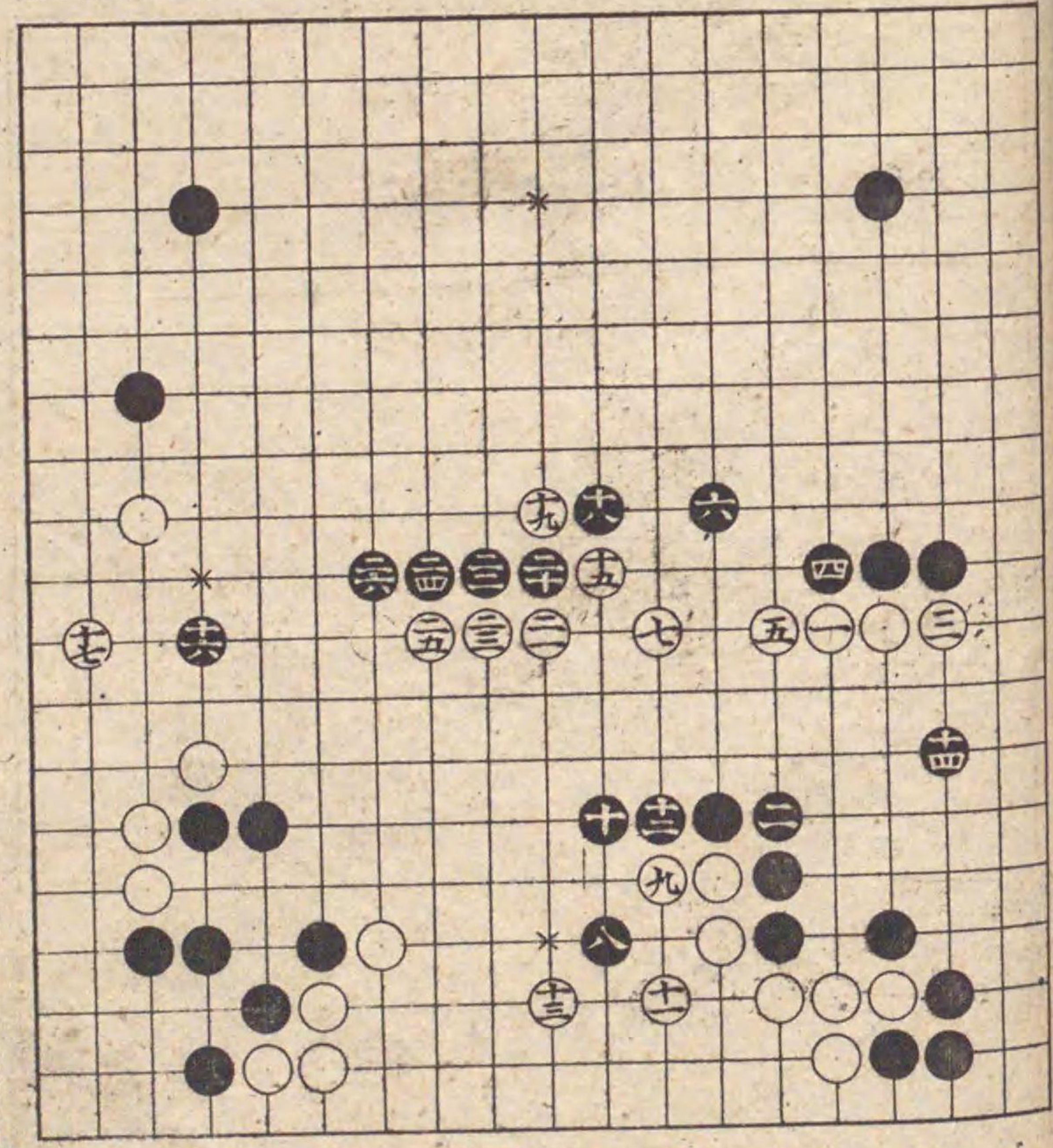
白三三あし、次小記
 決如斯ふりても一向
 打へまやうなし



前番白四一の手より
 りたり
 如斯なりても黒と
 二の処打込てハ黒大
 小よし



本番白三一の手より
 替る
 中の白をせる手の心
 持故十と如是打て如
 是かりてハ一筋ふて
 白悪し黒大小吉心得
 打へし



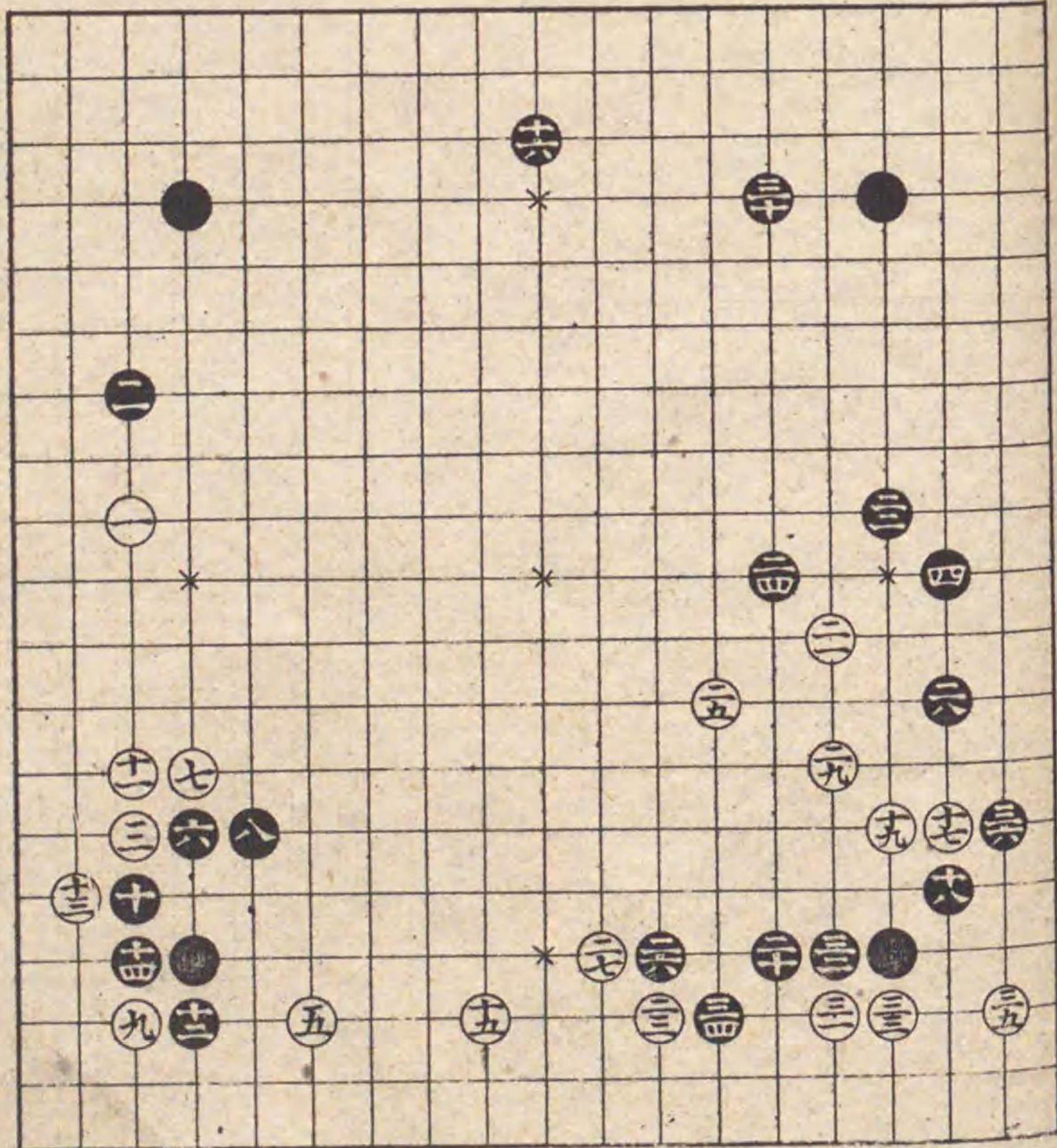
○置其處自在

四目置之部

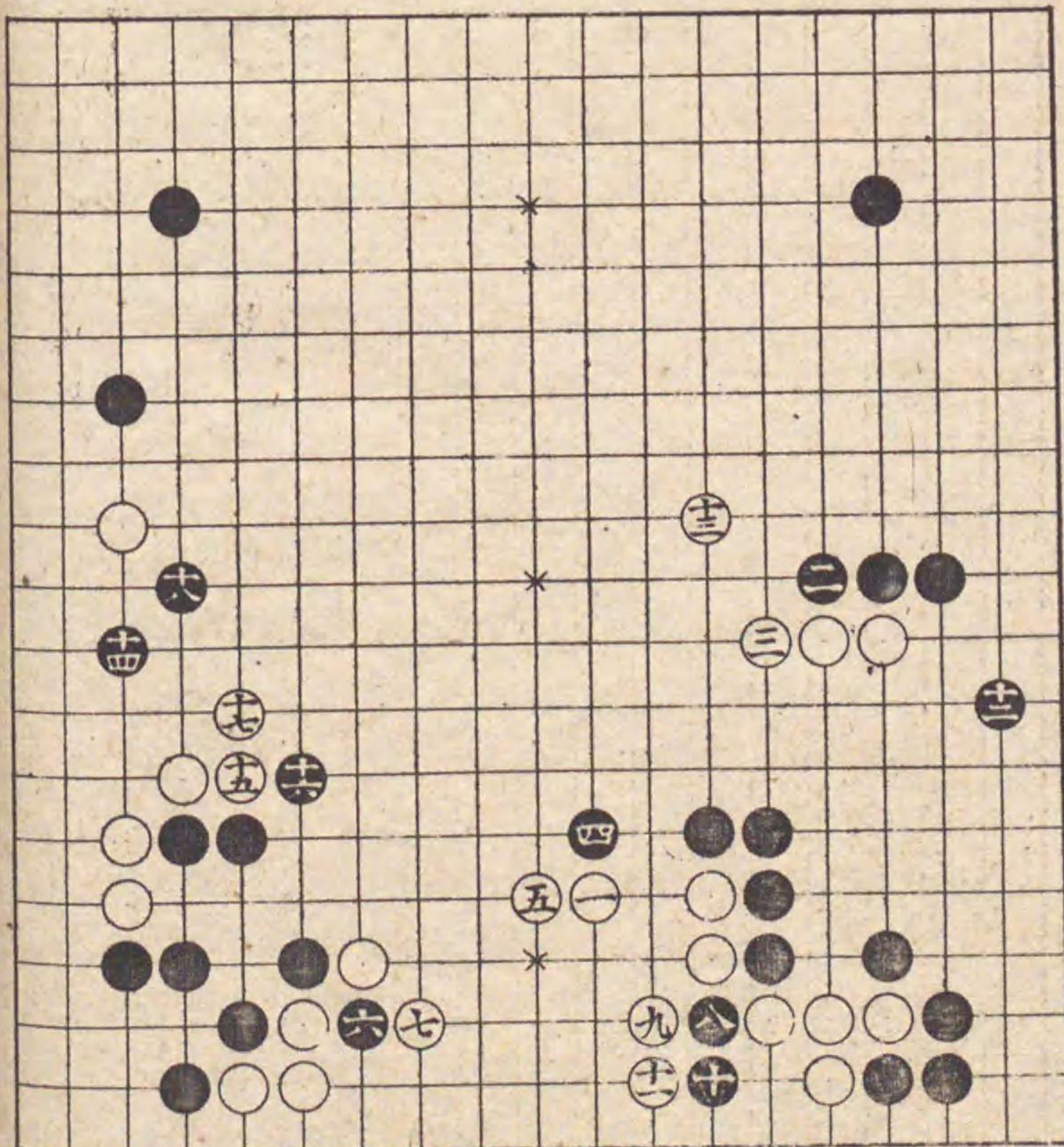
○四十五

方圓書房

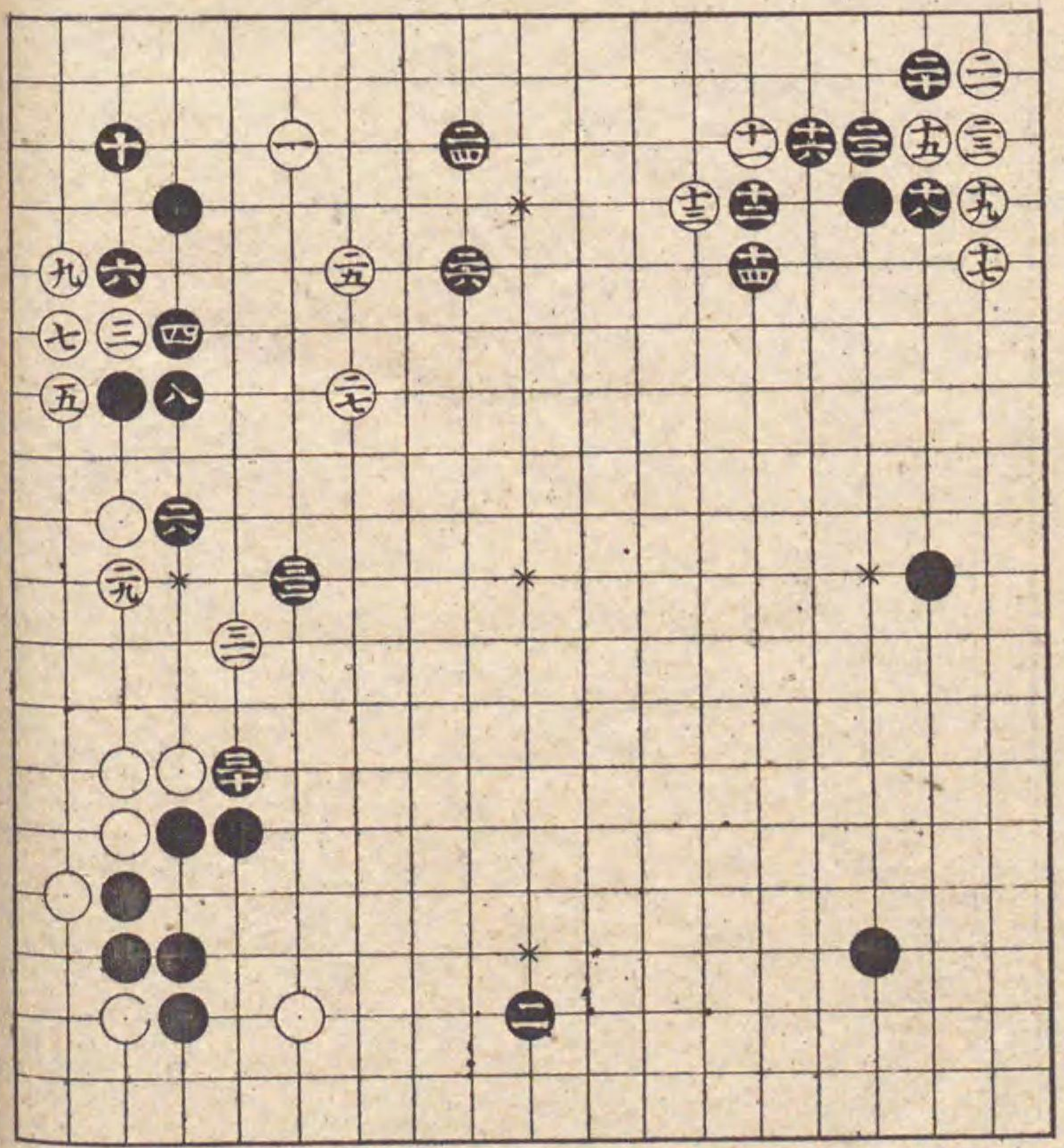
一筋ふして紛る大
位よして吉



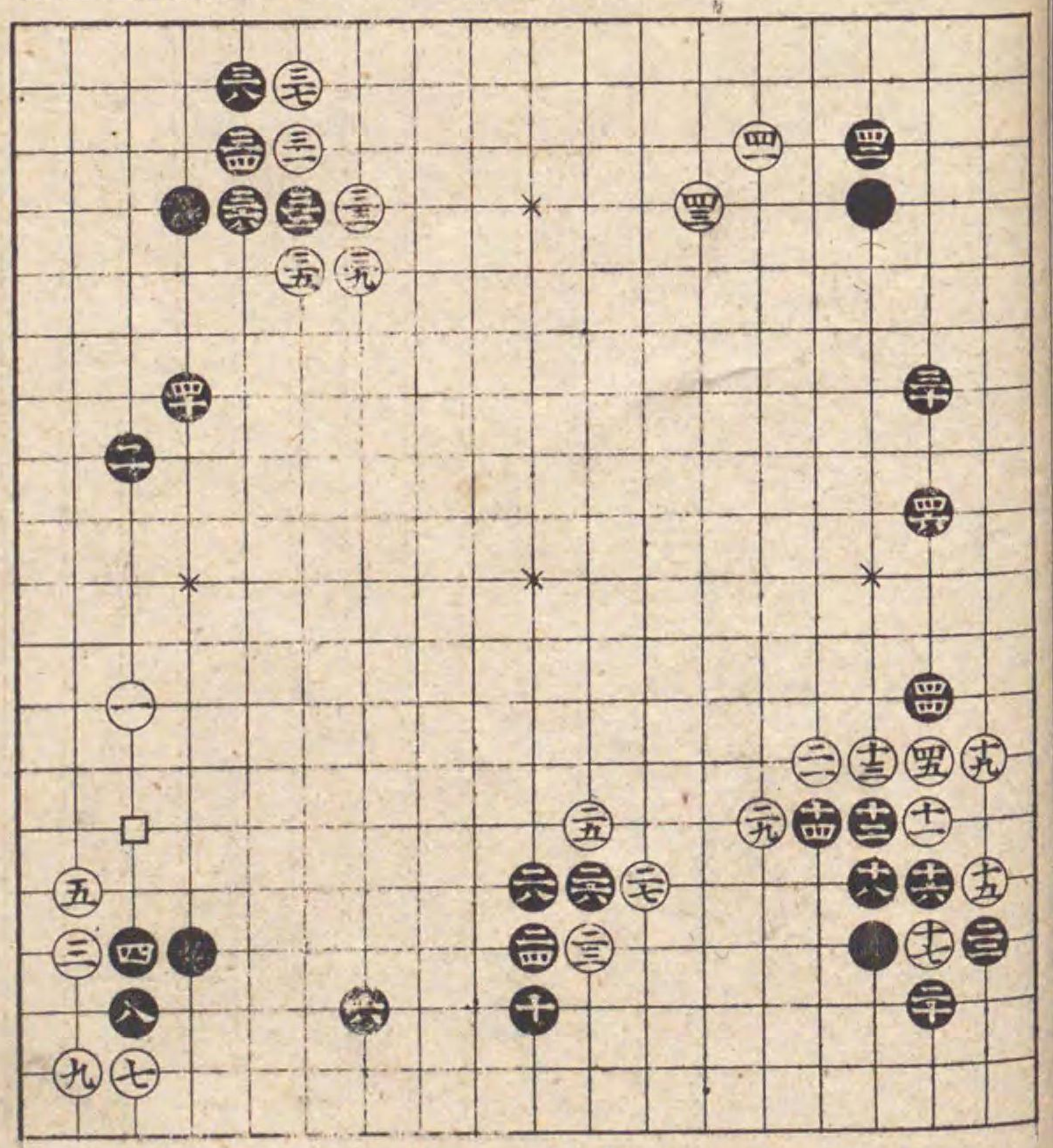
る
前番白三の手より替



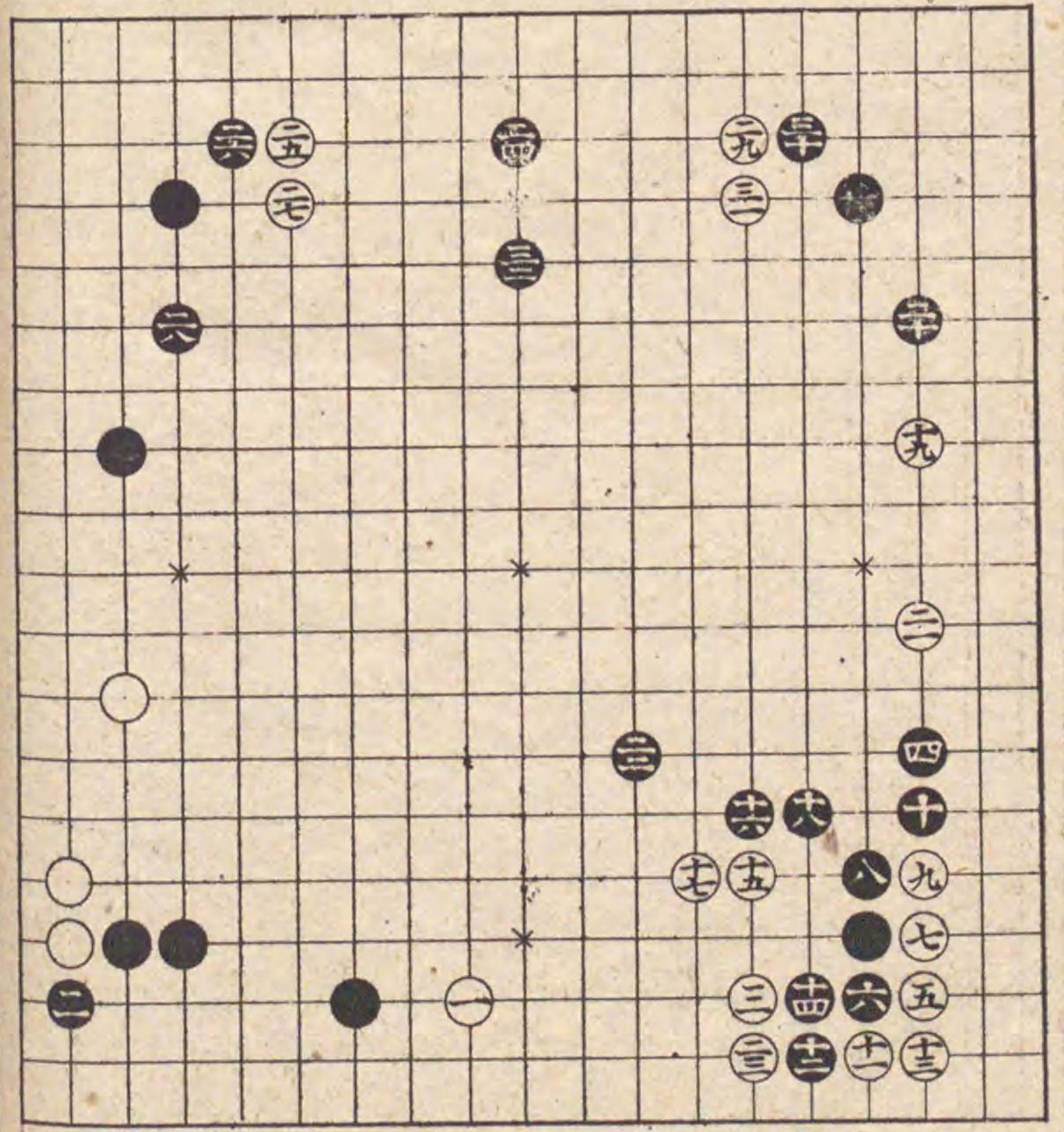
前番白十五の手より
替る
黒三十の手大小吉三
一とうたせ三二と打
手談面白く考へ有へ
まことなり



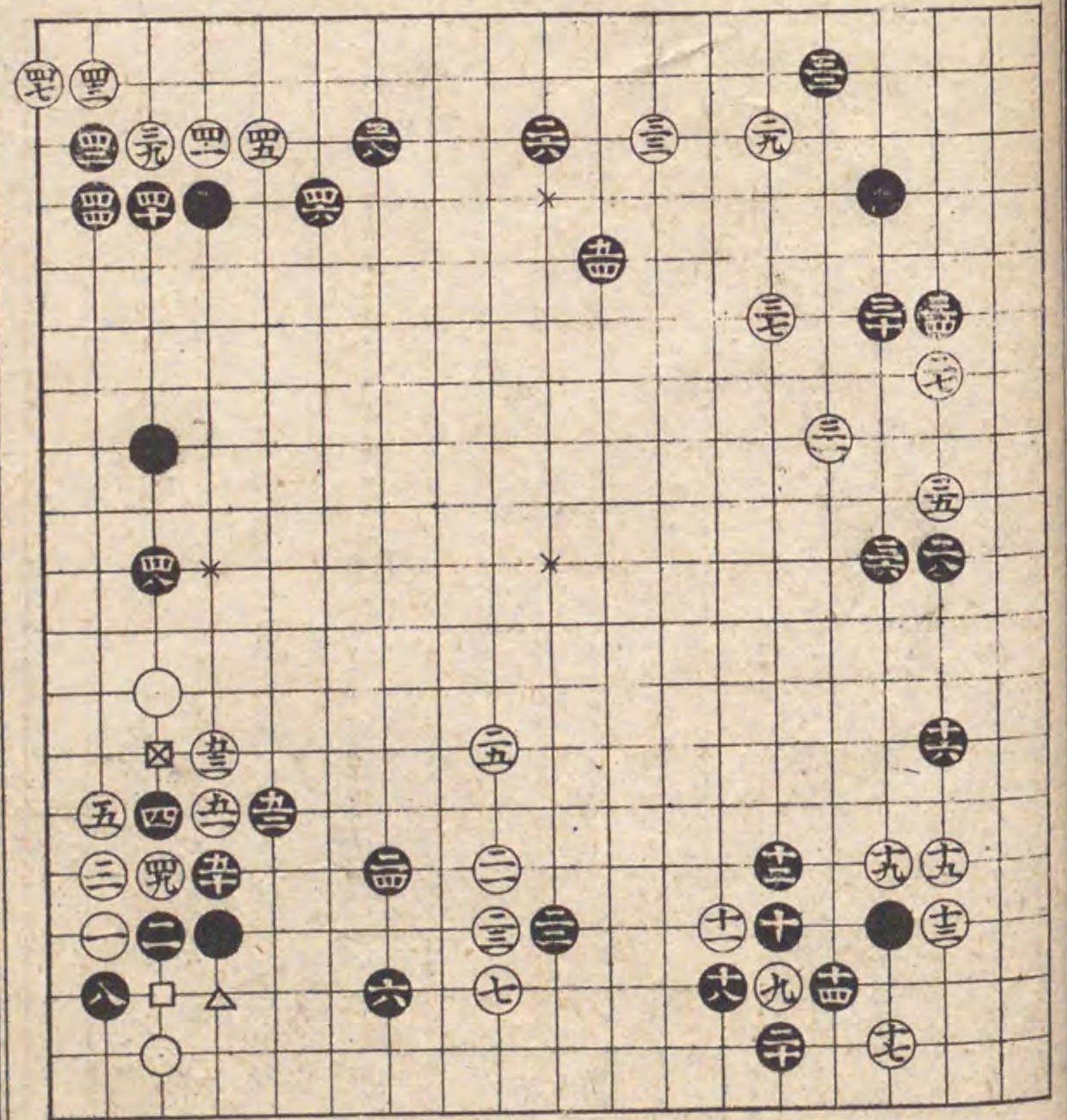
白七の手いり、紛れ
る手筋ありされとも
八とうたれてハ却て
悪し白八の所へもね
て打ハ黒の方少し重
し乍去黒六の手ひて
口印へ打後ハ如是六
と打ハ吉替り次ハ記



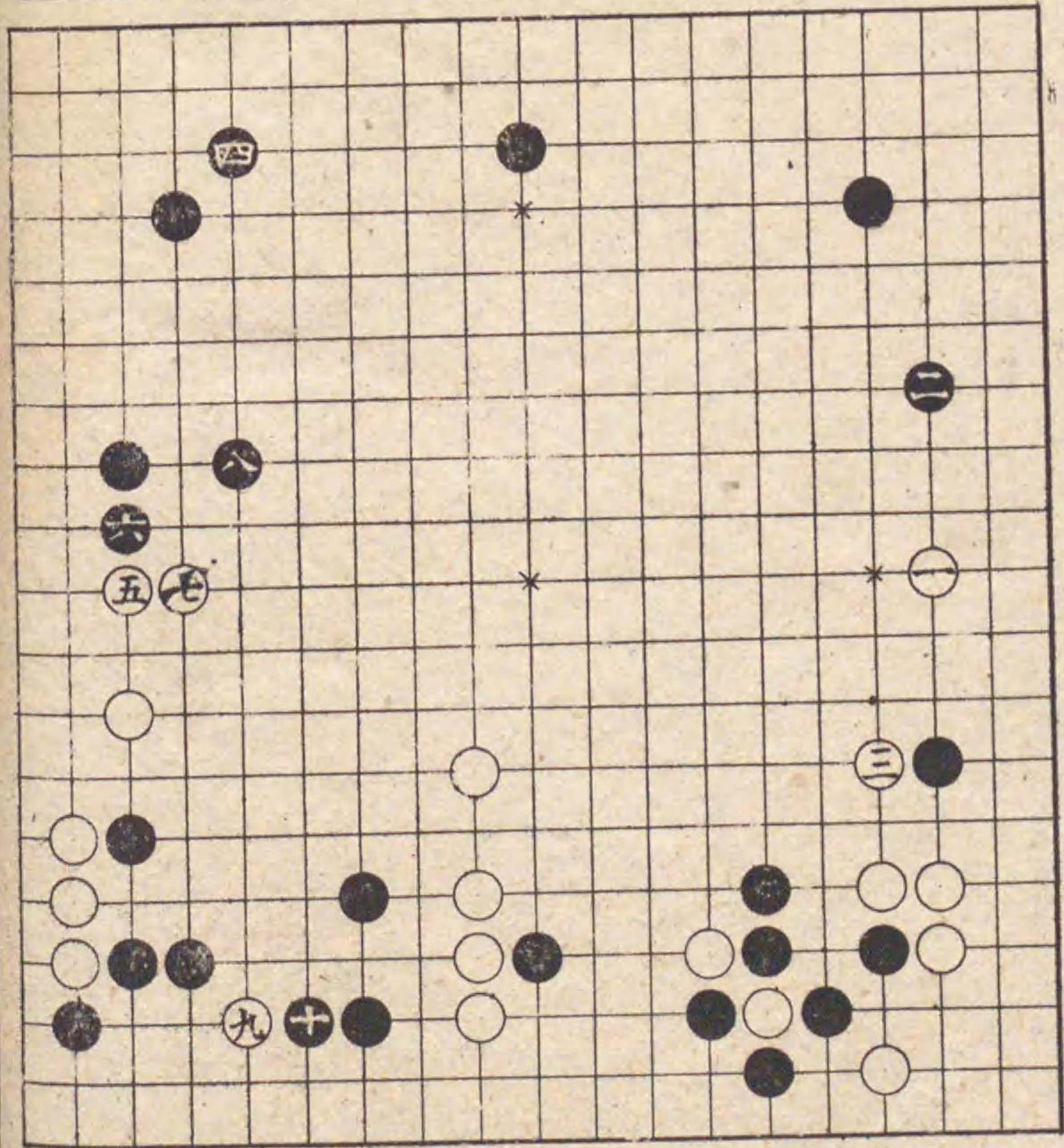
前番白七の手とり替
 如是方りても吉三二
 能手の左右の白打ふ
 くき手の前ふ有手こ
 はつてくへらば



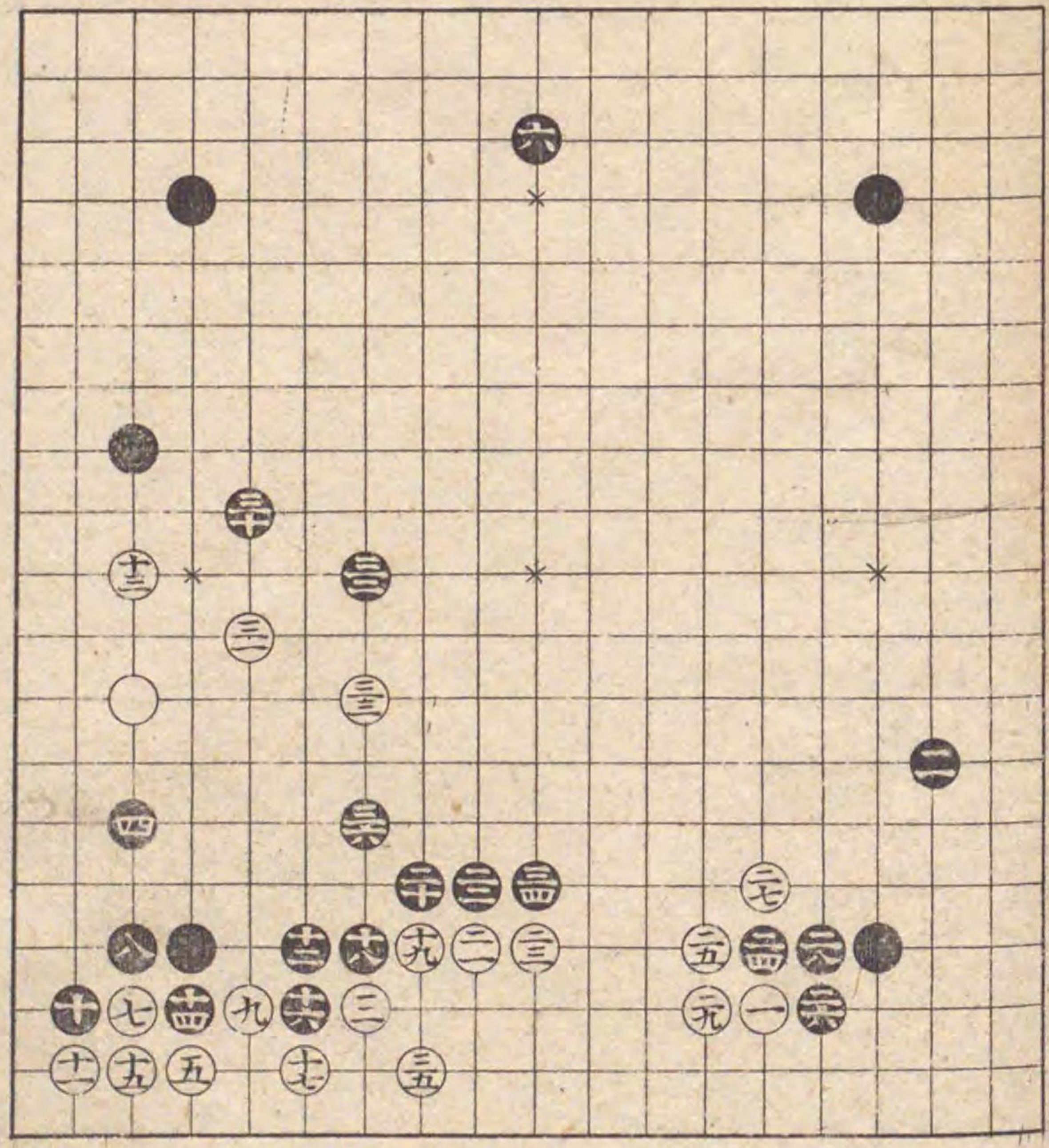
本番黒六の手とり替
 四と如此打置ハ宜し
 白五の手まで口印へ
 打ハ黒△印へ押へ打
 之白○印へ下る時黒
 印へ打故吉黒四の
 手にて直ふハの所へ
 押打ても吉少々手筋
 六々敷故如是打せ置
 之替り次ふらる



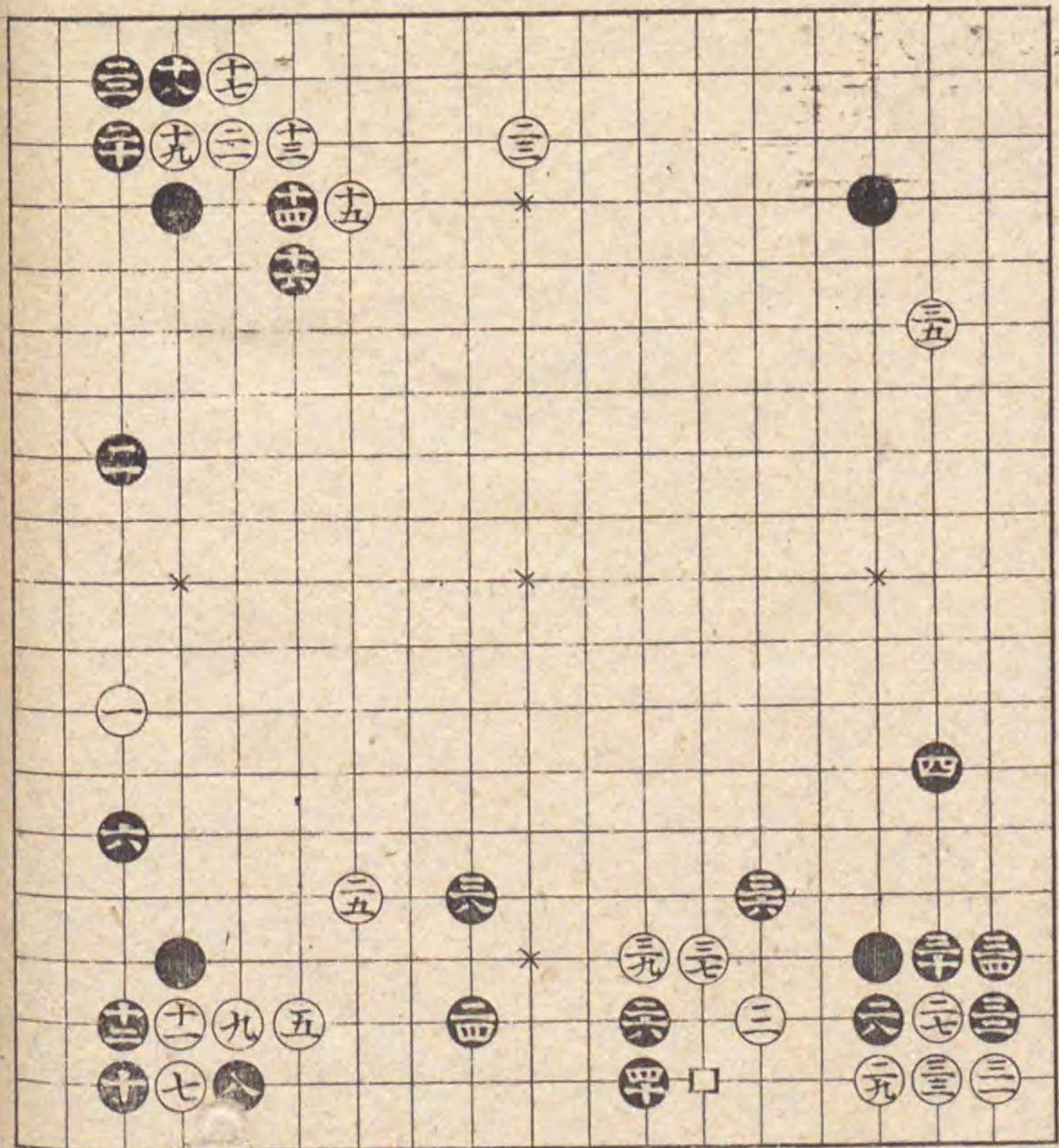
前番白二七の手より
りせり



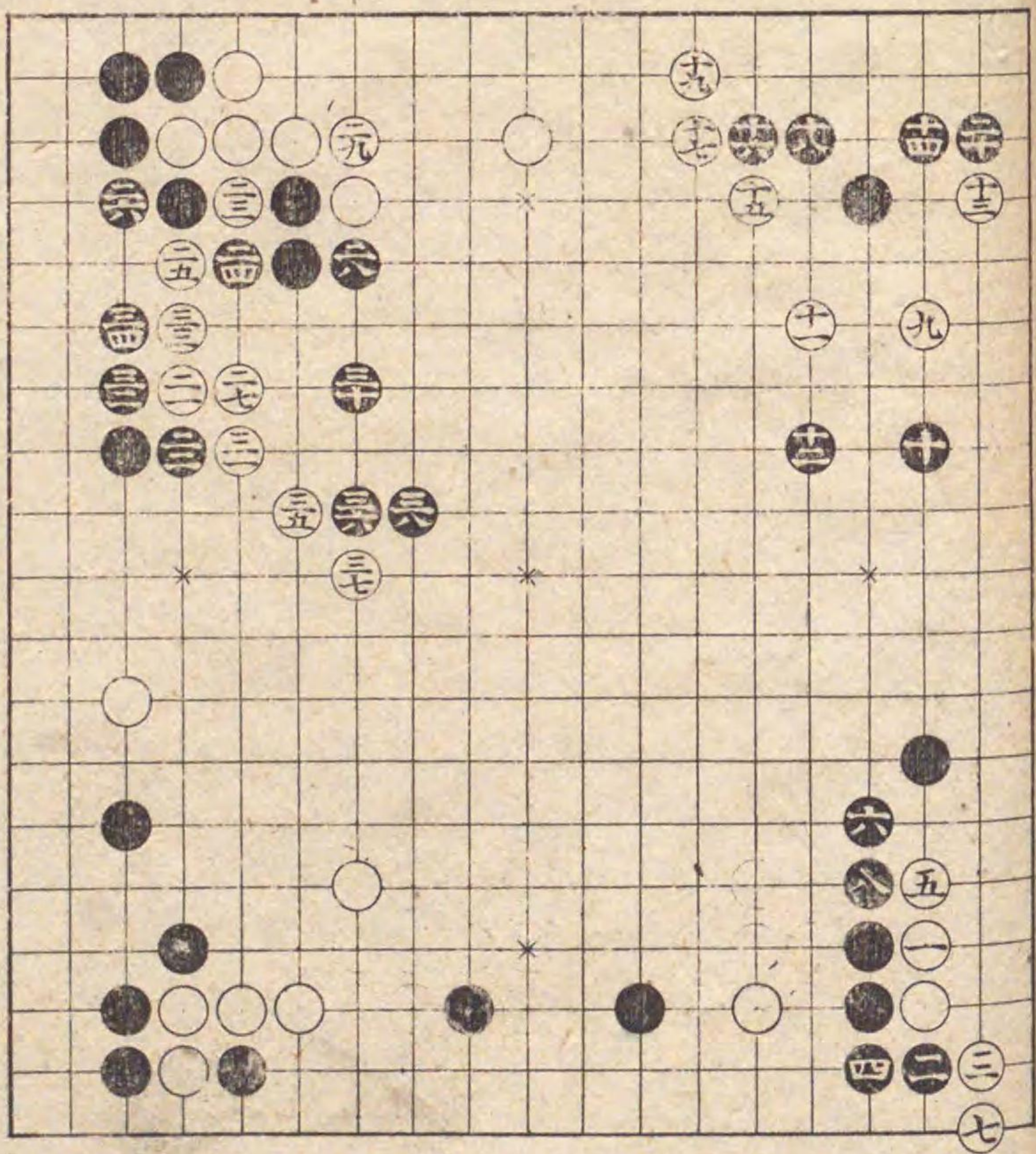
本番白三の手より替
る
三十趣向間々有手
如是黒より押して打二
ツ挂馬ふかけて打と
甚宜手筋へはつてべ
りらげ



黒三六の手筋やせら
かふして此所面白き
手なり心得べし黒四
十の下り大ふ吉口印
へ尖ハ悪し



前番白二九の手より
替る
如是ありてハ一筋ま
て一向黒の方紛れな
し



五十の手小て征あり
 故如是打征のた
 りこれなき時ハ四二
 の手小て口印ハ尖打
 あり

